

同志社時報

2020.10
No. 150



特集 ■

■ オンライン教育の今後の展望や可能性

■所謂る良心を手腕に運用するの人物を 出さん事を勉めたりき

富田 正樹（香里中学校・高等学校教諭）

『同志社大学設立の旨意』の中の、非常によく知られた言葉である。これを知らない人は同志社で働く人としては不十分ではないかとまで思われるほどだ。しかし、その内容を吟味してみると、往々にして私たちは怠っているのではないか。

新島裏のキリスト教教育を、私たちは「良心教育」という言葉で置き換えることがある。特定の宗教の信仰を持たない人も、良心が大切だという点では概ね納得しているのではないだろうか。ところが新島によれば、この良心は手腕として運用されなくてはあまり意味のないものである。

良心とは内面のこと、手腕とは外面の言動に現れる技能のことと言っても良いだろう。言動がどんなに立派に見えても、私心の無い良心に基づいていなければ、何の価値もない。「たとえ、山を動かすほどの完全な信仰を持つていようとも、愛がなければ、無に等しい。」〔新約聖書コリントの信徒への手紙（一）13章2節〕

しかしそれ以上に、手腕として言動に現れない、内面に留まったままの良心も、持ち腐れでは価値が半減する。また、良心は内面にあるのに、それを言葉や行動に表す力や勇気が無いのも大変残念なことである。良心は言動に表されるのが望ましく、そのための手腕も必要なのである。自戒も込めて研鑽に励みたい。

『同志社大学・ダイキン工業包括的連携協力』

2020年3月25日

同志社大学とダイキン工業株式会社は包括的連携協力に関する協定書を締結し、2020年3月25日にダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンターにて記者発表が行われました。今回の連携事業は、2020年4月から10年間実施されます。



『JICA・同志社ラグビーインド派遣・政策学部海外フィールドワーク・オンライン帰国報告会』

2020年6月19日

2020年6月19日、JICA・同志社大学体育会ラグビー部インド派遣および政策学部海外フィールドワークのオンライン報告会が行われました。プログラムに参加したラグビー部員や政策学部の学部生から現地での活動内容、そこから得た学びや課題について報告され、本プログラムの今後の可能性とエネルギーを再認識する時間となりました。



『「いづみ寮」の竣工式を挙行』 2020年3月17日

京田辺キャンパスの東側に「いづみ寮」が完成し、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策を講じたうえで、竣工式を執り行いました。オルガンの前奏で始まった竣工式は厳かな雰囲気包まれ、八田英二総長・理事長の式辞に続き、飯田毅学長が挨拶として寮整備の経緯や新寮の概要について紹介しました。また、ご列席いただいた上村崇京田辺市長にはご祝辞を頂戴しました。

「いづみ寮」の名称は、聖書を出典として命名されました。荒涼とした自然環境の中で生まれた聖書の文化において、泉は生命の源泉と考えられ、救いの象徴でもありました。「いづみ」の名のとおり、潤いに満ち溢れた交わりが創出される場となるようにとの願いが込められています。



■ 中学校・高等学校

『入学式』

2020年4月6日

新型コロナウイルス感染症対策により、例年とは違う形の入学式でしたが、中学生：292名、高校生：364名の新入生を迎え、2020年度をスタートする事ができました。



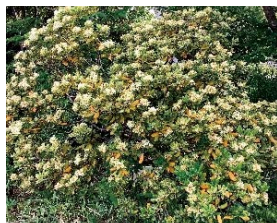
＜高校＞生徒と教職員によるチャペルでの入学式



＜中学＞生徒、保護者を別教室に分散しH R教室での入学式

『新入生を迎える春の木々』

桜満開の中、新入生の歓喜の声が飛び交う入学式。となるところでしたが、今年は新型コロナウイルス感染症のため、四月の入学式は中止となりました。入学生はもちろんですが、花や樹木たちも残念に思っていると思います。静かな学校に綺麗に咲きほこった花々です。



『入学式』

2020年4月7日

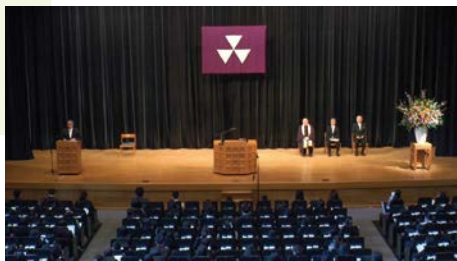
新型コロナウイルス感染症拡大防止のため例年とは違う形になりましたが、晴天に恵まれ入学式を無事に実施することができました。全員がマスク着用で参列し、生徒同士の間隔を取るため中学生は午前、高校生は午後に行いました。また、式に参列できる保護者を一人に制限したため、式の様子をWebライブ配信しました。



『中学生入学式』

2020年4月8日

新型コロナウイルス感染症の拡大防止対応の中、短時間で入学式・入寮宣誓式を挙行了しました。



『高校生入学式』

2020年4月8日



高校生入寮宣誓式

■ 小学校

『オンライン学習』

2020年5月

小学校では、新型コロナウイルス感染症の影響による学校休校期間中、1～6年生すべての学年で、オンラインによる学習を進めてきました。自宅で過ごす児童とのつながりを大切に考えながら、ロイロノート・スクールを活用した双方向での授業、Zoomを使ったライブ形式のオンライン授業や交流会に取り組み、小学校には児童の元気な声が響きました。



初等部：『新入生入学式』

2020年6月19日

国際学院が開校して10年目の入学式が国際学院チャペルで挙行されました。今年度は新型コロナウイルス感染症防止のため、6月の実施となり、さらに午前中に1年1組、午後から2組と、分散しての開催となりました。どちらの式でも小さなかawaiiい1年生が入場する姿はとても微笑ましいものでした。式では八田英二総長・理事長、植木朝子大学学長からご祝辞をいただき、無事終了することができました。



国際部：『Model United Nations (M.U.N.) Conference』

2020年2月26日～2月28日

On February 26-28, 2020 the 10 members of DISK Grade 9 participated in the Marist Brothers Model United Nations (M.U.N.) Conference, an event that DISK has been attending for more than 7 years. The conference attracts students from international schools all over Japan, with more than 100 students participating. The students debated four major issues facing the world today: infectious diseases, lethal autonomous weapons, ethnic minority rights, and the illegal drug trade. This year's conference was a little smaller because of the COVID-19 virus, but the smaller conference allowed more students to speak out and be heard. The 2020 M.U.N. was a great success and DISK will definitely be attending this event in 2021.



『休園中の子どもたち』



およそ2ヶ月間にもおよぶ休園期間にも子どもたちが様々なことを経験できるよう、園から手紙や教材という形で「お楽しみ」を届けました。その一つが、「好きな食べ物・料理」「自分の好きなもの」の絵を描くことです。お家の人と一緒に、話をしながら描いたり、自分なりに色や形を工夫しながら描いたり、それぞれの年齢に応じた、子どもらしい伸びやかな絵が集まりました。このような時期保育内容も制限されますが、新しい取組も考えさらに教育内容を強化して、園児の心身の成長を育みたいと思います。

『花の日礼拝』

2020年6月8日、6月9日



6月8日(月)・9日(火)に、新園舎で初めての花の日礼拝を行いました。今年度は、分散登園のため2日間に分け、礼拝もクラスごとに行う等、社会的距離を保ちながらの実施でした。各々が持ち寄ったたくさんの花束に囲まれて、神様から守られ導かれて、たくさんの恵みに感謝のお祈りを捧げました。

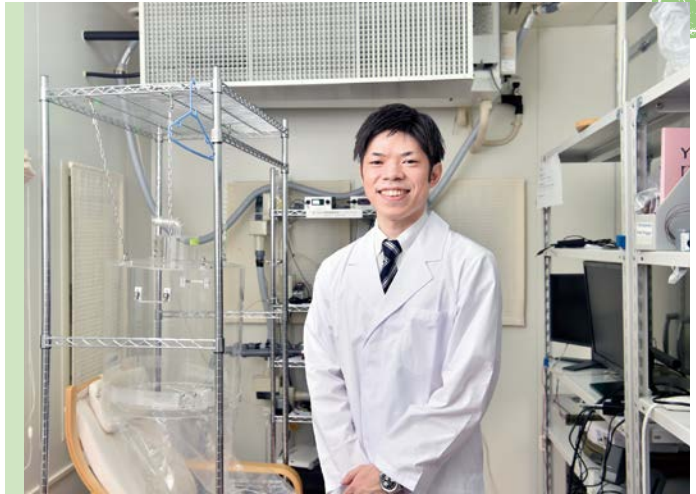
インタビューの2人

私の志

(本文4〜7頁)

山本満さん

1986年大阪府生まれ。2011年、近畿大学農学部食品栄養学科卒業。2013年、同志社大学スポーツ健康科学研究科博士課程(前期課程)修了。同年、小林製薬株式会社に就職。「消臭元」「サワデー」などの芳香剤の開発に携わった後、現在は通販事業部研究開発部スキンケア研究開発グループに所属。基礎化粧品ライン「ピフミド」など、スキンケア・ヘアケアの化粧品全般を開発中。



小林製薬で商品開発をしています。今まで誰も思いつかなかったのに、もうこれがないと生活できないという、皆さんの生活習慣を変えるような製品を作りたくて、日夜ヒントを探し続けています。

木下昌美さん

1987年福岡県生まれ。2010年、同志社女子大学文学部日本語日本文学科卒業。2012年、奈良女子大学人間文化研究科(現・人間文化総合科学研究科)博士前期課程修了。同年奈良日本文化新聞社に入社、2014年退職。現在は講演、妖怪ツアーなどを行う他、奈良県内のおばけ譚を収集し、2016年3月より毎月第一月曜に電子新聞「奈良妖怪新聞」を発行中。著書に『すこいぜ!! 日本妖怪びつくり図鑑』(辰巳出版)。



奈良を中心に、日本の妖怪を研究中です。大学、在野を問わず妖怪研究者は多いので、いずれは協力して日本妖怪事典を世に出せればいいですね。

同志社 時報

No. 150

2020.10

私の志 INTERVIEW

新市場創造型商品を求めて 山本満さん

真面目に馬鹿なことを続ける先に誰も思いつかない成功がある

人と共に生きる妖怪たち 木下昌美さん

妖怪と人との深いつながりを追究する

特集

コロナウイルス禍における同志社教育

オンライン授業の可能性と今後の展望

「臨時休校期間中の香里中高の対応と事例紹介」

新型コロナウイルス感染対策下での高校2年音楽におけるリモート合唱の取り組み「愛は勝つ」

八田 英二

岡本由美子

藤井 宏樹

水上 陽一

8

10

15

19

6

4

目次

〈表紙〉

オンライン授業

中谷隆志(大学国際教育インスティテュート事務長)

〈表紙裏〉

新島 襄の言葉

富田正樹

(香里中学校・高等学校教諭)

〈口絵〉

■大学 『同志社大学・ダイキン工業包括的連携協力』／『JICA・同志社ラグビーインド派遣・政策学部海外フィールドワーク・オンライン帰国報告会』

■女子大学 『「いづみ寮」の竣工式を挙行』

■中学校・高等学校 『入学式』

■香里中学校・高等学校 『新入生を迎える春の木々』

■女子中学校・高等学校 『入学式』

■国際中学校・高等学校 『中学生入学式』／『高校生入学式』

■小学校 『オンライン学習』

■国際学院 初等部：『新入生入学式』／国際部：『Model United Nations (M.U.N.) Conference』

■幼稚園 『休園中の子どもたち』／『花の日礼拝』

「私の志」インタビューの2人

建物案内 磐上館（同志社大学）

23

建物案内 シャロームハウス（同志社幼稚園）

24

同志社の逸品 クラーク記念館の建築資材

イギリス・ブレナヴォン製鉄所製レール、琵琶湖疏水用刻印レンガ、ドイツ製ボルト

同志社社史資料センター

25

同志社ナウ

JICA・同志社ラグビーインド派遣・政策学部海外フィールドワーク・

オンライン帰国報告会

川井 圭司

京都木津川マラソン大会ボランティア

女子大学ボランティア活動支援センター

ある朝、目が覚めたら植物になっていた?!

小島 明子

オンラインオープンキャンパス開催

中條あさ子／古川佳世

全日本室内アーチェリー選手権大会で優勝!

山田 慎吾

同志社幼稚園新園舎開園！新たな環境での育ちと学びを模索して

竹中 琴恵

新刊紹介

統治の不安と日本政治のリアリティー―政権交代前後の底流と国際比較文脈―・池田謙一著／2040年大学教育の展望―21世紀型学習成果をベースに―・山田礼子著／抵抗者の物語―初期アメリカの国家形成と犯罪者の無意識―・白川恵子著／源氏物語といけばな 源氏流いけばなの軌跡・岩坪健著／日系カナダ人の移動と運動 知られざる日本人の越境生活史・和泉真澄著／国境を越えるラテンアメリカの女性たち ジェンダーの視点から見た国際労働移動の諸相・松久玲子編著／ラテンアメリカの連帯経済 コモン・グッドの再生をめざして・宇佐見耕一他著／フェイクニュースに震撼する民主主義―日米韓の国際比較研究―・松本明日香訳、他著／東アジア海域から眺望する世界史 ネットワークと海域・向正樹他著／空とアメリカ文学・藤井光他著／歴史認識から見た戦後日韓関係―「1965年体制」の歴史学・政治学的考察―・太田修他著／民主主義の哲学 デューイ思想の形成と展開・加賀裕郎著／看護と福祉のはざまを紡ぐ「人」と向き合う、細井恵美子の信念と実践・杉原百合子編著／Doodle Your World - THE JAPAN EDITION - Philip Wood他著

33

32

31

30

29

28

27

25

24

23

パンデミック時代のオンライン授業―良心学・宗教研究との接点―

小原 克博 40

考古学と文化財保護―恵まれた同志社大学の環境から―

水ノ江 和同 42

電池は複雑だからこそ面白い

土井 貴之 44

アスリートのパフォーマンスを追いかける―メカニズムと実感が生み出す進化―

新井 彩 46

ピアノ演奏を左右する人の身体、その使い方

中野 慶理 48

「WWL（ワールド・ワイド・ワーニング）コンソーシアム」で目指すもの

帖佐 香織 50

～「SGH（スーパー・グローバル・ハイスクール）」のその後の展開～

同志社クローズアップ

同志社大学・ダイキン工業との包括的連携協力

後藤 琢也 52

Computer Science without a computer

コンピュータを使わずに情報科学を学ぶ

外村 拓也 54

く教室をぬけだして、MSの展示をきっかけに

奥村賀寛／畑中亚希子 56

二月卒業式

平松 譲二 58

「同志社とキリスト教探究」

特別 寄稿

明治維新の三傑と同志社

―西郷、大久保、木戸と新島襄―

本井 康博 60

●本誌では学校法人同志社の各学校名から「同志社」を省略して、左記のとおり表記しています。

大学Ⅱ同志社大学、女子大学Ⅱ同志社女子大学、中学校・高等学校Ⅱ同志社中学校・高等学校、香里中学校・高等学校Ⅱ同志社香里中学校・高等学校、女子中学校・高等学校Ⅱ同志社女子中学校・高等学校、国際中学校・高等学校Ⅱ同志社国際中学校・高等学校、小学校Ⅱ同志社小学校、国際学院初等部・国際学院国際部Ⅱ同志社国際学院初等部・同志社国際学院国際部、幼稚園Ⅱ同志社幼稚園

●執筆者等の役職・職位は2020年10月1日現在、大学広報課が把握している範囲で表示しています。

新市場創造型商品を求めて 真面目に馬鹿なことを 続ける先に 誰も思いつかない成功がある



やま もと みつる
山本 満 さん
製薬会社研究員

今やなくてはならない、数々の衛生雑貨やスキンケア商品。研究開発の裏にある努力と、ユニークな視点を持つことの大切さを卒業生に伺いました。

「痩せるパンツ」の挫折が
今の道を拓いた

——近畿大学農学部から本学のスポーツ健康科学研究科に入学されたのですね。

山本 食に関心があつて農学部で栄養士の資格を取得した後、もつと踏み込んだ研究をしたくて同志社の大学院に来ました。まだ就職を考えていた4年生の頃、手軽なダイエットを教える先生をテレビで見かけて、病院等での食事指導や栄養指導は面白そうな仕事だなと思っていました。同じ頃、病院実習で患者さんから食の悩みを聴く機会が何度もありました。治療のためとはいえ、長年続けてきた食生活を大きく変えるのは非常に難しいと、皆さん異口同音に言うんですね。それを聞いて、ダイエットを目的とした着圧式下着の開発を考えました。無理のない程度に着圧をかけた服を着て、普通の暮らしをするだけで痩せられれば素敵でしょう。いろんな大学へ相談しにいった中で、同志社のスポーツ健康科学部の海老根直之先生だけが真面目に聴いてくださった。それで進路を決めました。

山本 ——大学院での研究を教えてください。
2年間ずっと、着圧式下着の研究

をしていました。1年目はパンツをはいて動く時のわずかなエネルギー消費の増加を検出できる、高精度な試験系の開発と、パンツの着圧方法の設計や、着圧をうまく捉えられる運動方法の設計に費やしました。1年目の終わりに健康用品メーカーとの共同研究が始まり、2年目はメーカーの試作品を使って実験をしました。当初は他社の下着よりかなり良い結果が得られていたのですが、服というのは、着て動くときれますよね。ずれると効果はゼロになる。かといってワンサイズ窮屈にすると、逆に代謝が減るという結果が出た。窮屈な服を着て歩くと、エネルギーを節約しようとし無意識のうちに身体が怠けようとするんです。痩せるための服を着たら、むしろ太る結果になってしまった。この結果が出たのが夏休み。就活ではこの研究で下着や体操服メーカーから内定をいただいていたので、困りました。その時、小林製薬が面白いモノづくりをしていると聞いて説明会に行くと、私の価値観にも結構合う会社だと分かった。そこで急遽試験を受けて、採用が決まりました。痩せる服の限界が見えた時、それまで何が楽しかったのかと考えたら、試験系の開発やモノづくり

が楽しかったんですね。小林製菓は非常に多様な商品を出していて、アイディア勝負やスピード開発を重視する風土があります。そこが私の性分に合っていると思いました。

——現在主にどんな商品を開発しておられますか。

山本 「ヒフミド」などのスキンケア、アロエ育毛液などのヘアケアや、ヘアカラー商品などです。業界最大手クラスの会社では分業制が進んでいますが、うちではたいいてい一人で最初から完成までを担当します。大変ですが、自分が香りだけではなく開発していない芳香剤よりも、自分一人で香りも消臭成分やその配合も全部育て上げた商品の方が愛着も強いです。売れたらすごく嬉しいですよ。

「お悩み解決」が モチベーション

——お仕事のやりがいをお聞かせください。

山本 以前は「消臭元」など、店頭販売用の芳香剤を開発していました。ドラッグストアにも置いてあるので自分の作った商品がいつでも見られるし、それをお客様が買う場面にも遭遇できる。これは嬉

しいです。現在の通販事業部では、自らが開発した商品とお客様との距離が非常に近くなりました。小林製菓専用の通販サイトで扱う商品を作っているの、販促物には私の名前やプロフィール、開発の話などが掲載されます。お客様に「あのアロエ育毛液を作った山本さん」として覚えていただける。ダイレクトに使用感などの声が聞ける。以前は踏み込めなかった部分に、今は思い切り踏み込めるところが嬉しいですよ。

——商品開発に際して大切にしている思いがあれば教えてください。

山本 人に喜んでもらえるものを作りたいという思いが、いつもあります。研究職には毎月5件のアイデア提出が課せられていることもあって、街や電車では常に人間観察をしています。違和感のある行動や不満そうな仕草をしている人がいれば、それを解決するモノを作って喜んでもらいたい。それから当社の研究職の間では、よく「真面目に馬鹿なことをする会社」という言い方をします。この姿勢を大切にしていきたいですね。例えばゴミ箱に貼る虫除け芳香剤「コバエゴミサワデー」を開発した時は非常に苦労しました。虫除け製品は社内初だったので

虫の生態から調べ、試験方法も一から全部考案しました。実際に部屋を目張りし、コバエを500匹放して実験したことも(笑)。生ゴミを入れたゴミ箱を2個置いて、一方にはゴミサワデーを貼り、ハエがどちらに入るか実験したんです。同様の馬鹿なことを真面目にやっているベテラン研究員は大勢います。そんな一途な姿勢から、何かが生まれると思うんです。

——挑戦してみたい仕事はありますか。

山本 就活では、着るだけで痩せる体操服ができればメタバオの子どもがいなくなつて喜ばれますよ、という調子でプレゼンをしていました。今でも、生活習慣が変わるくらいの商品を作りたいという願望があります。当社の「熱さまシート」が好例です。今まで世の中にそんなものはなかったけれど、ヒットして類似商品が出て、ドラッグストアに冷却シート用の棚が登場した。今では海外でも販売され、この習慣が浸透しつつあります。それぐらいの商品を作つて、会社の伝説になれるといいですね(笑)。

(2020年7月30日、京田辺校地にて)

人と共に生きる妖怪たち 妖怪と人との 深いつながりを 追究する



きのした まさみ
木下 昌美 さん
妖怪文化研究家

子ども時代の興味を突き詰めて、妖怪研究に没頭する毎日。謎めいた肩書きとは裏腹に、好きなことをひたすらに追い求めて輝く人が、そこにいました。

お化けを通して
モノ・コトを考える

——妖怪文化研究をされるようになった経緯を教えてください。

木下 小さい頃から読書やテレビアニメの「まんが日本昔ばなし」が好きで、水木しげるさんの漫画も身近にありました。高校生になり、お化け好きの塾の先生から専門書をお借りして読むうちにお化けが研究対象になることを知って、大学で勉強してみようと思ったんです。同志社女子大学を志望したのは、神話・説話文学が専門の寺川眞知夫先生が授業で鬼を取り上げていることを、シラバスで知ったからです。ちょうど歌人の馬場あき子さんの著書『鬼の研究』からも影響を受けた頃でした。現代のようにお化けが細分化されて種類が増えたのは江戸時代からで、昔は鬼、天狗、鶴、土蜘蛛などしかなかった。そこで、まずは鬼の研究から着手することにしたわけです。

——学生時代はどのような研究をされましたか。

木下 『今昔物語集』の仏教説話に出てくる鬼の研究です。仏教の凄さを説明するために鬼が使われるだけでなく、儒教や道教など海外の思想、宗教、信仰、風習

が元になったと思われる鬼もいて、面白い話がいっぱい出てきますよ。

——妖怪の何に魅力を感じるのですか。

木下 そもそも私は、鬼やお化けが実際にいるとは思っていません(笑)。興味があるのは、お化けを通して見えるモノやコトです。鬼を通じて、昔の人が何を考えていたのか、なぜそういう物語を残そうと思ったのかを考えるところに関心があります。その一環で現在、奈良県内の妖怪を調査して『奈良妖怪新聞』を毎月発行しています。ただ、古い話をこ存じの方は亡くなられていくことが多く、情報源にたどり着ける確率は低い。だから尚更、今のうちに妖怪譚の収集をしておく必要性を感じます。

——一番興味のある妖怪は何ですか。

木下 最近では河童です。河童とは関東の方言で、他の地方では河太郎(かわたろう)、ガタロ、ひょうすべなど、異なる呼称がありました。地域によって異なる性質を持ついた全国の水辺の不思議な生き物が、ある時すべて「河童」に統一された。これは研究のし甲斐があります。「妖怪」という言葉も同様で、700年頃から編修された『続日本紀』に登場して以来、しばらくは使われていませんでした。明治時代になり、文明国家として立つために、お化け

などないことを証明する研究が行われたのですが、研究対象を表す言葉を決める必要があった。そこで『続日本紀』から「妖怪」という言葉を引いてきて今に至ります。ただ、妖怪の存在は完全に否定できなかったようですね。そのあたりから妖怪から見えるモノ、コトの研究がより盛んになっていったと思われれます。

人間の悲しみや動揺を 妖怪が救う

——妖怪は何のためにいるのでしょうか。

木下 妖怪はその土地の風習や文化の反映です。例えば奈良県五條市大塔町(旧大塔村)では、毎年7月に篠原踊しのはらおどりが行われます。大塔村には「送り狼」という、人を送っていったり危害を加えたりする妖怪が言い伝えられていて、狼避け祈願が踊りの起源だと言われています。吉野郡上北山村には「一本太たら」の話があります。旧暦12月20日に現れるので、その日は外に出るなど言われてきました。実際その日は積雪がひどくて危ないことが多いのです。そのような土地のリズムなどと結びついて、人間が妖怪を生み出した部分はあると思います。

——人間が創造した妖怪から、逆に現代の人間が学べることはありますか。

木下 いま疫病退散祈願のシンボルとして、アマビエの絵が流行っていますね。しかし江戸時代の瓦版に描かれたアマビエは、当年より豊作が続くが、併せて疫病が流行する「自分の姿を写せ」とは言っています。疫病を退治してあげるとは言っていません。アマビエのように予言をする妖怪は、近世では結構います。これらは病氣と関連づけられることがままあったため、新型コロナウイルス感染症の収束を願う人々が、アマビエは疫病退散の妖怪であるという理解をしたのではないのでしょうか。東日本大震災の後、幽霊を見たという人が非常に多かったですね。NHKでも特集されました。本当に見た人もいたかもしれませんが、身近な人を突然襲った事実を受け入れられない人たちにとつては、幽霊の話がある種の救済になったのかもしれない。アマビエの流行も、新型コロナウイルス感染症の猛威に動揺した人々が気持ちを軽くしたかったからなのかも。これらはお化けの役割の一つではないでしょうか。普段はお化けなどと思いきやなくても、大きな出来事があると流行る。昔もそうでした。人が生きていく中で、やはり何かしら意味のある存在なのでしょう。

——将来の目標はありますか。

木下 「奈良妖怪新聞」の継続と、「奈良妖怪事典」の出版です。並行して、地元である福岡県の妖怪研究も続けたいですね。妖怪の分野はものによっては先行研究が少ないので、次世代の研究者のためにも、少しでも形にして残したいです。

——活動の幅も広げておられますね。

木下 依頼があればいろいろな場所で講演や講義をします。奈良の高校、東京の奈良県アンテナショップ、シニア世代対象の奈良フェニックス大学。ツアーも企画します。講演では、例えば高校生ならお化けに限らず自分の知りたいことがあれば何でも調べられるよということを、一番に感じていただきたいですね。私自身が「知りたい」という単純な原点からここまで来ましたが。本誌をお読みの卒業生の皆様にも、好きな道だからこそ、多少苦しいことがあっても続けていけることが伝わると思います。たとえそれが仕事でなくても、皆が好きなことを突き詰めていけば、日本はもつと楽しくなるかなと思います。

(2020年7月13日、奈良市にて)

コロナウイルス禍における同志社教育

総長・理事長

はったえいじ
八田英二

法人内諸学校の先陣を切って2020

年2月22日、同志社香里高等学校卒業式が厳かに執り行われました。ところが2月27日、新型コロナウイルス感染症対策本部会合で安倍首相（当時）は全国の小学校、中学校、高等学校、特別支援学校に3月2日から春休みまでの臨時休業を要請しました。これを受けて諸学校も軒並み式典の中止、簡略化、或いは延期等の措置を決めました。大学と女子大学では卒業式と入学式が共に中止という事態となりました。

幼稚園を始め数校は当初の日程通り、細心の注意を払いつつ入学式を実施しました。政府はその後、緊急事態宣言を7都府県、やがて全国に発出するに至りました。5月下旬に同宣言が解除されたため、残る学校は2月遅れの入学式を執り行い、6月20日の香里中学校・高等学校

で一連の入学式は終了しました。

感染症の終息を目指して「3密の回避」「ソーシャルディスタンス」「新しい生活様式」「コロナウイルスとの共存」など、新たな要請が国民に届いています。7月の第2波に続く、第3波の到来は確実なようです。同志社内では学校長を中心とした緊急対策本部が組織され、学生・生徒・児童・園児の安全・安心の確保、教育水準・環境の維持に最善を尽くしています。

数百名規模の講義が一般的な大学や女子大学は、「3密の防止」という観点から同時双方向型やオンデマンド型のオンライン授業に切り替えています。多数の学生の地域内、地域間移動を避けるためにも必要な措置でしょう。とはいえオンライン授業では学生の負担増や知的財産権という頭の痛い問題も発生しています。

しかも学生の教育・研究の遂行には実験・実習室や情報環境設備、図書館の利用は不可欠で、ソーシャルディスタンスを保ちつつ、いつ、どのように学生の入構制限を解除するのか、関係者が知恵を絞り、フェーズ別の解除スケジュールが提示されました。秋からは対面授業とオンライン授業を併用のハイブリッド型授業となりました。同時に経済的に困窮した学生への緊急支援策も講じられています。

幼稚園、小学校、中学校・高等学校では通常授業に戻りましたが、生徒、教師共にマスクやフェイス・シールドを着用せざるをえない状況です。カリキュラム消化の遅れを危惧する声もあり、夏休みの短縮化、休日授業、諸行事の中止・変更を余儀なくされました。未踏の地に足を踏み入れた如く、教職員にとっては神経をすり減らす日々の連続です。

コロナウイルス禍での新たな教育スタイルを求めて、各学校は暗中模索の状態です。もとより同志社はキリスト教主義精神を人物教育の基盤とする私学です。

コロナウイルスとの共存の下、良心教育の完遂を願う同志社社員の篤い思いは募る一方です。

感染拡大に伴い、法人にも各学校から様々な要請が寄せられています。そもそも法人の意思決定の基本は、学生、生徒、児童、園児は勿論、社員、そして大切なご家族の健康を守ることです。心身ともに健康な社員がいてこそ同志社教育です。なかでも「社員たるものハ生徒ヲ鄭重ニ取扱ふ可き事」と新島が遺した学生第一の教育思想が根本です。

新しい生活様式での良心教育といえば、オンライン授業の実施に伴い、各学校で準備、提供された「新島精神」「同志社科目」「宗教学」「キリスト教」等のコンテンツは多数に上っています。また法人が作成した教職員向け、一般向けの同趣旨の啓発プログラムも充実してきました。これらを法人が取り纏め、「良心教育オンデマンド」として公開することも得策

かもしれません。

逆境のもと各学校が持てる力を最大限に発揮できるように法人は最大限の支援をしてまいります。緊急対策本部を立ち上げ、学校間の情報提供、交換、共有や要望の取り纏め、調整に努めます。さらに法人内各組織、理事会、評議員会挙げでの支援活動も展開しています。学生等への緊急支援、遠隔授業環境の整備を望む声も寄せられています。新たに同志社在学学生修学支援金規程を設けて、手元にある善意の寄付金の配分も既に決定しました。

「一人一人ハ大切ナリ」という新島の言葉を覚え、各学校では社員が知恵を出し合い、力を合わせて、学生、生徒、児童、園児に寄り添いながら、新たな試み、献身的な努力を続けています。かつて明治から大正にかけて言論界や政界で活躍した人物に竹越三郎氏がおりました。「基督教新聞」の主筆も務めた彼に新島は書簡を送っています。「男児一戦して破るも已む勿れ、再戦して已む勿れ、三戦して已む勿れ、刀折れ矢尽きて已む勿れ、骨摧け血尽きて已むべきのみ、真理の為

に擲つにあらざんば吾人の生命もまた無用ならずや」というものです。

私たちの生活はコロナウイルス禍で制約され、教育活動にも発想転換が求められています。この変化を同志社は良心教育の強化に結びつけ、以て同志社教育の深化に繋げればと期待しています。希望の灯をかざし、共に手を携えて、新たな挑戦をすることを願ってやみません。

オンライン授業の可能性と今後の展望

同志社大学政策学部教授

おかもと ゆみこ
岡本由美子

オンライン授業の可能性

新型コロナウイルス (COVID-19) の影響は計り知れない。教育界が受けているそれら言うまでもないことである。本学では少なくとも2020年度の春学期は対面形式での授業がなくなってしまう。1995年からおよそ25年間、私も大学及び大学院教育に携わってきたが、こんな経験は初めてである。今年の3月下旬、大学から案内が来るまで自分がオンライン授業に従事するなどということは考えてもみなかったことである。ということ、私はオンライン授業に関しては全くの素人なのであるが、この苦しみ続いた4ヶ月間の経験を通して感じたオンライン授業の可能性と今後の展望について、素人ながら纏めさせていただくことにしたい。

私はオンライン授業の今後の可能性として、大きく分けて3つに分類できるのではないかと感じている。1つ目は今回のような非常時において、これまでの対面式授業が学生に提供できない場合にその代替措置として行うオンライン授業である。もちろん、オンライン授業といつてもその形態は様々である。教材提示による授業、オンデマンド配信授業、リアルタイム遠隔授業、等々、である。このポイントは何と言つても、学びの継続性である。対面式授業と100パーセント全く同じ内容の教育が学生に提供できなくとも、とにかく学びの機会を将来の日本を背負っていただく若い人から奪わないこと、その重要性を強く感じる。

筆者は国際経済、国際開発を専門分野としているため、年に少なくとも数回は海外への渡航が必要となる。大学での授

業の関係で海外渡航は毎年、夏休み中の8月から9月、及び、春休み中の2月終わりから3月が多くなる。この10年間近く、毎年夏は、ゼミ生を連れて、発展途上国での海外フィールドワーク (FW) に従事してきた。このCOVID-19の影響によつて、少なくともこの1年間はこれまでの形式での海外FWの実施は不可能となつてしまった。海外だけでなく、国内でもFWを行うことは現状下では決して容易くはない。

しかし、この絶望的とも思えた状況を救つてくれたのが学習のオンライン化である。毎年夏に訪問している、ウガンダ東部のエルゴン山麓の小規模農家組合の現在の代表に4月初めにメールで連絡をとつたところ、何とその代表は、海外のコーヒーマーケットと連絡を取る際、すでに以前からZoomを使用しているとの

ことであった。それを契機としてその他の方々とも連絡を取ってみると、今年度の夏、ウガンダで実際に対面はできないまでも、Zoom上で会い、ディスカッションを行うことは十分に可能である関係者が意外にも多いことを知った。思いもよらなかつたことである。この結果、今年の9月16日（水）から23日（水）までの間に、ウガンダの各地とZoomで回線を繋ぎ、オンライン上で海外FWを行う予定を打ち立てることができた。

もちろん、山本・岩崎・柴田（2020）が主張するように、学外で行う学習においては、担当教員によつてこれまで構築された信頼関係やフィールドとなる地域社会（国内外に限らず）に既にネットワークがあることが非常に役に立つことはいまでもない。その意味では、新規で実施するフィールドワークのオンライン化は難しい面も存在するといえよう。しかし、決して不可能ではない。日本内外でも逆に視察をオンライン化して様々な取り組みを域外に発信しようとする試みが盛んとなつてきている。例えば、国内では、葉っぱビジネスとゼロ・ウエ

スト宣言のまちとして有名になつた上勝町が5月、オンラインで視察を開始している。

オンライン授業の2つ目の可能性としては、よりよい教育の提供のために、対面式授業が再開後もオンライン授業が併用して取り入れられる可能性があげられる。私が講義科目で春学期開講した授業の独自アンケート授業評価結果を見てみると、講義を対面式授業で受講したかつたと答えた学生は全体の3分の1にすぎなかつた。残り3分の1は逆にオンライン授業でよかつたという声であつた。残り3分の1は、どちらでもよい、というものであつた。この回答には正直驚いた。私の講義科目の授業はほとんど、木曜日が金曜日の1限目に開講されるため、下宿生でなければ、朝の通学地獄から解放される側面が大きそうである。しかし、そういうった、消極的な理由だけでなく、オンライン授業の方が動画を使用したコンテンツ内容を組み込みやすくなり、内容をよりリアルに捉え、理解しやすくなる側面もあるようだ。また、対面式授業では正直、なかなか、遠方からゲストス

ピーカーを招聘するのが難しいのであるが、オンライン授業になるとそのような制約もなくなる。場所にとらわれずお呼びすることが可能となり、内容面でのさなる充実に期待する受講生の声もある。また、今後、1つの科目の中でも、授業回数によつてはオンラインで提供したり、対面式で提供したり、その授業の内容により合つた形式が選ばれる可能性がある。授業形態に自由度が高まれば、教育効果も高まることが予想される。

さらに、場合によつては、デジタル革命によつて、対面式授業や現地スタディ（又は、フィールドワーク）がオンライン授業に切り替わる可能性もあるだろう。日本経済新聞社（2020）によれば、イギリスのインペリアル・カレッジ・ロンドンの地球科学の修士課程では、フランスとスペイン国境沿いのピレネー山脈の实地見学の代わりにグーグルアースや地層のバーチャルモデル、ビデオ通話を用いたそうである。COVID-19に対処するために使われた、一過性的な授業ではなさそうである。

オンライン授業の3つ目の可能性とし

ては、これを1つの契機として、従来の海外留学の考え方や今後の大学教育のあり方に大きな変化が現れる可能性があるということである。まず前者であるが、授業のオンライン化が進めば、国内外の大学間で授業の相互乗り入れは少なくとも技術的には比較的容易になる。したがって、池田（2020）は授業のオンライン化の進展は学生の移動を中心として考えられている海外留学の在り方にも大きな変化があり得るとする。事実、国内の学生と他大学の学生と共にオンライン上で国際協働学習に取り組む動きも始まりつつあるようである。実質的には物理的に移動しない形での海外留学である。

また、柳川（2020）は、教育のオンライン化は、大学教育の概念そのものを大きく変える可能性を秘めているとする。その大きな理由の一つは、オンライン授業の導入で、教室の人数制限を受けることなく、講義が可能となることだ。これまでのように入試で学生数を絞り、受講生の学力をある程度揃える必要性が薄くなる。入学の段階ではこれまでに比べると幅の広いより多様な学生を

受け入れるが、オンライン講義を通じて、合格者だけがリアルな議論中心の授業をキャンパスで受講できるようにするといふものである。唐突のように思えるが、海外の主要大学に目を向けてみると、今回の新型コロナウイルス感染症拡大の問題が発生する前からこれに類似の取り組みは行われてきているようだ。もし、このような動きが本格化すれば、同教授が主張するように、社会人のリカレント教育や学生の就職のあり方も含めて大きく社会が変わる可能性を秘めている。それだけ、教育のオンライン化の可能性と影響力は大きいと言えるであろう。

オンライン授業の課題

しかし、オンライン授業や教育の可能性は大きいものの、乗り越えなくてはならない課題もあることは当然認識をし、オンライン授業や教育を今後積極的に推し進めるのであれば、その解決に当たらなければならぬ。まず第一に、ハード面でもソフト面でも、しっかりと準備が必要なことである。今年の3月から4月の対応は急を要したため、教職員もそし

て学生も心の準備も含め、十分になかったといえる。教員の立場から言わせていただくと、まず、ハード面で個人的に準備をせざるを得なかったものがある。ソフト面でも、ZoomやMicrosoft Teams等といったオンライン授業開講のための最低限の知識は短期間で自力で習得せざるを得なかった。もちろん、学部や大学の職員の方に随分とサポートいただいたことも事実であるが、また、オンライン授業の毎回の講義準備は対面式授業に比べ、場合によってはかなりの準備時間を要する。慣れも必要だが、相当な準備時間を覚悟しなければならない。

また、対面式授業が当たり前の時には気付かなかった、「授業の合間」の重要性（白戸2020）だ。学生は大学に単に授業に出席するためだけに来るのではない。部活動やサークル活動といった課外活動だけでなく、「授業の合間」に友人や教職員に語りかけたり、聞いたたりして様々な悩み事を解決していることも数多くある。精神的なストレスの発散の場にもなっていることも容易に想像がつく。対面式授業が長期間にわたって学生に提

供できない場合には、どのような方法によつてその「授業の合間」を補うことができるのか、についても配慮が必要となってくるであろう。

オンライン授業の今後の展望

石（2018）が執筆した本は、今回の新型コロナウイルスが全世界を巻き込むほど多大なる影響を与える前に書かれたものであるが、その到来を予見していたかのである。この本の中では、40億年の地球環境史の視点から人類と対峙し続ける感染症の正体書かれている。

日本では毎年冬にインフルエンザが大流行し、世界でも最近ではエボラ出血熱やデング熱で人間の生命を脅かし続けている。その度に、新薬が開発はされるものの、ウイルスもまた薬剤に対する耐性を獲得し、進化を遂げてきたのである。たとえ今回の問題が収まったとしても、感染症との闘いは今後も繰り返される可能性が高い。とするならば、対面式授業の代替措置としてのオンライン授業にはいつでも切り替えることができるよう、今後、準備しておく必要は少なからずあると

考えられる。

この感染症拡大の際の学校教育の持続可能性については、日本のみならず、世界共通の課題でもある。2020年の3月末頃はCOVID-19の地球規模での拡大により、先進国も含め、ほぼ全世界の国々が全面休校にしていた。2020年8月までに先進国の多くでは全面的、又は、部分的に再開されているが、発展途上国ではまだ全面休校が続いている国も多い²。筆者が教育研究の対象としているアフリカのウガンダも少なくとも2020年8月初頭においては大学を含めてまだ休校が続いているようである。現地でも高等教育を受けたウガンダ人の方々とZoomで話をする度に、とても残念そうに話をしているのが印象的である。このような休校措置は児童、生徒、学生の生涯賃金を大きく低下させてしまう可能性を秘めている。対面式授業を完全に代替できなくても、学生たちの学びを持続させる手段を模索する必要性は日本のみならず、全世界にあるといえよう。

また、教育のデジタル化、オンライン化が一般的には遅れていたと言われている

る日本でも、最初は必要性に迫られて始めたオンライン授業を行っているうちに、それ以上の可能性を見出した教員も多々いるのではないだろうか。少なくとも筆者はその一人であり、その内容は前述の通りである。対面式授業が全面的に再開をしても、科目によっては対面式授業と併用してオンライン授業が実施される可能性もあるのではないかと考えられる。又は、科目によつては、完全にデジタル教育化する可能性さえ秘めている科目も存在する。

今回の経験を契機として、オンライン授業の問題・課題の整理とそれへの対処を行いながらも、今後、よりよい教育提供の模索の一環としてオンライン授業についての議論が深まっていくことが期待されているといえよう。

（参考文献）

- 池田佳子（2020）「オンライン国際協働学習」『日本経済新聞』2020年6月29日付朝刊16ページ。
石弘之（2018）『感染症の世界史』角川ソフィア文庫。

白戸圭一（2020）「いいことばかりでない、大学のオンライン授業　やってみて『ないもの』に気づいた」*The Asahi Shinbun Globe* 2020年7月23日 (<https://globe.asahi.com/article/13564504>からダウンロード。最終アクセスは、2020年7月26日）。

日本経済新聞社（2020）「新常态の教育変革迫られる（下）大学の学び、再考の機会―英インペリアル・カレッジ・ロンドン副学長マギー・ダルマン氏」『日本経済新聞』2020年7月22日付朝刊29ページ。

柳川範之（2020）「教育の概念、激変の可能性」『日本経済新聞』2020年7月16日付朝刊25ページ。

山本敏幸・岩崎千晶・柴田一（2020）「関西大学のオンラインを活用した授業の取組みと課題」*JUCE Journal NOI* 2～10ページ。

¹ 本学ホームページではネット配信授業という言葉が使われているが、私ここではオンライン授業という言葉を使用することにする。

² データは次のソースから入手。
UNESCO (2020), "COVID-19 Impact on Education", (<https://en.unesco.org/covid19/educationresponse>からダウンロード。最終アクセスは2020年7月31日）。

「臨時休校期間中の香里中高の対応と事例紹介」

同志社香里中学校・高等学校教頭

藤井 宏樹 ふじい ひろき

1. 休校期間中の

諸連絡について

臨時休業要請を受けて、本校は3月初旬の学年末考査後から休校とした。

休校期間中の諸連絡と課題配信はすべてClassiで行い、家庭での健康観察（検温と体調管理）結果もClassiのアンケート機能を用いて毎朝報告していただくことにした。そのうえで家庭との連絡や生徒の心のケアのために担任には1台ずつ携帯電話を貸与した。（携帯電話は7月末まで延長した。）

その後5月6日まで休業要請が延長されたため、教科書や副読本、学年通信や課題冊子等を宅配した。新学年の担任団のなかから、Classiの初期化担当（IDやパスワードを忘れた場合の対応）と学年通信・課題配信担当者を決めてそれぞれ

権限を与えた。

2. 同時双方向型配信を

見送った理由

当初はスムーズに運用できていたが、4月になるとClassiにログインしづらいう状況が出てきた。また、生徒に1台ずつデバイスを持たせることを見送っていたため、各家庭のネット環境やデバイスの状況を調査しなければ双方向の配信はできないという前提に立ち、再度調査することにした。

その結果、必ずしも本校生徒が常時使用できるとは限らないことが分かった。

最も多かったのは「自宅にネット環境（Wi-Fi接続）がない」というものであった。次に多かったのは「生徒専用のデバイスが無い」というものである。特に新中1では「スマホを買い与えていない」

という回答が一定数見られた。その他、

「保護者が在宅でPCを使用する」「他の学校に通っているきょうだいがオンライン授業で使用している」「マンシヨン単位での契約なのでこれ以上増やすことができない」「工事を申し込んでも1か月以上先になる」等であった。このようにネット環境が十分ではない生徒が一定数いることが分かったため、同時双方向の授業配信を見送ることにしたのである。

ただし保護者には、再び休校措置を取らざるを得なくなる可能性があるため、ネット環境を整えてもらえるように強く要請した。

3. 学習動画について

動画作成にあたって、「学習動画配信の目的とガイドライン」を作成し、非常勤講師を含むすべての教員に配布した。

「目的」としては、「閉鎖的な環境下に置かれた生徒たちの学びを止めず、学ぶ機会を提供し続けるため」と「動画を通じて学校の様子を感じることで、生徒たちが少しでも日常を取り戻し、バランスのとれた生活を送ってもらうため」の二点を掲げた。

「ガイドライン」は多岐に渡るため詳細は省くが、自宅で視聴できない生徒が不安になったり不利になったりしないように配慮すること（見られない生徒にDVDを郵送する、授業内で復習するなど）を前提とした。また、本校の「ソーシャルメディアポリシー」を厳守し、個人情報や人権に配慮した内容、著作権等についても十分理解したうえで作成することを求めた。一方、生徒にもメディアリテラシーとして守るべきマナーについて注意喚起し、保護者にも協力を求めた。

学習動画については、本校限定のYouTubeチャンネルに順次アップロードする形にした。Class内の動画や小中学生を対象としたオンライン教材「eライブラリアドバンス」を課題とした教科もあったが、大部分は本校の教員が工

夫を凝らしたオリジナル動画であった。単に授業や課題を配信するだけでなく、授業開きで行う「同志社香里での学び」を紹介するものも多かった。実技系教科は1学期に取り組む作品の手順を伝えるものほか、生徒が自宅等で歌う様子を教員が編集した「リモート合唱」などの取り組みも行っていた。次節でいくつか事例を紹介したい。

4. 事例紹介（各担当者より）

中1英語科（畑中亚希子教諭）

工夫した点は、3点あります。

①学校に親しんでもらうこと

中1は入試と合格発表直後の登校日以來、学校に來たことがありません。中学校に対して大きな期待と不安を抱えた状態で先の見えない休校ということで担任一同メンタル面でのケアを気にしていました。そこで学校の様子を知らせることをテーマにしていました。

施設の面では、登校した際の坂道から中1の靴箱の位置や教室までの道のりを見せたり、靴箱の開け方を教えたり。香真館、第一グラウンド、良心の碑、教室、

教員室、体育館、テニスコートなど、あえて色んな場所で撮影して校内の様子を見てもらったり、桜並木や第一グラウンドに沈む夕日などの風景を写したりもしました。中学校舎1階にある新島先生の銅像や卒業生が寄贈してくれた裸婦像（日展入選作品）も紹介しました。

教員の

面では、なるべく多くの教員に出演してもらいました。

「こんなやさしい先生たちが待つているから安心してね」という意味を込めました。英語を使ったクイズやゲーム、踊り、インタビューに参加してもらってそれぞれの自然体な人柄が垣間見えるようにしました。



友愛館1階 新島コーナーにて

②英語に親しみを覚えてもらうこと

2つ目のテーマは、中学校で初めて本格的に学ぶ「英語」という教科に親しみを持つてもらうことでした。まだ何も教えていない状態なので、他教科のようにいきなり教材を郵送して取り組んでもらうのは危険だと思いました。英語は文字から学ぶものというイメージがついてしま

まい、「英語は難しい」「英語は勉強」「読み方もわからないもの覚えさせられる」というネガティブな入り方をしています。

そこで、①で述べたような目的を第一に置き、英語の歌を歌ったりゲームをした



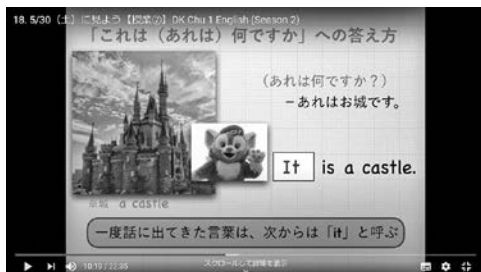
他教科の先生と一緒に

りしながら、「英語」という教科は「なんとなく笑顔があふれていて楽しいもの」というイメージを植え付けました。コントのようなものを演じたり、小道具を使ったりしました。「英語は音から入るもの」「英語はコミュニケーションの道具」「英語はアクティブなもの」というイメージを大切にしました。また、15人もの先生が英語の単語を発音の良い悪いに関係なく口にしていたり、スベルをミスして笑い飛ばしたりしている様子を見せて、英語はハードルの低いものだということも演出しました。

③休校でも予定通りのカリキュラムを進めること

GWまでは①と②の目標に集中しましたが、休校が延長された後は本来4月5月で進めたかった学習内容にとりかかりました。動画を見ながら取り組む授業プリントとワークブックを作成し、GW明けに発送しました。5月以降は動画の中で「学校や先生たちの紹介は一通り終えたから、これからはちよつと本格的に英語を勉強しようね」と断りを入れて、単元に入りました。パペット（手を入れて

て動かすぬいぐるみ）を使った寸劇とパワーポイントのスライドショーにナレーションをつけたものを使つて「am」や「this」など



ノートを取りながら…

ました。

その結果、一部の生徒を除いて教科書レッスン1とレッスン2の内容がばっちり身につけていました。4月から授業をしていたのとまったく変わらない進度です。また、動画で「出会って」いたので、学校再開初日から、担任の先生の顔をわかつていて抵抗なく話しかけられていました。入学式（6月22日）には、たくさん

に見ていました」と声をかけられました。

高1家庭科 麓早百合教諭

休校中の宿題として、「さらし布マスク」の材料とレポートを郵送して、YouTubeで「布マスクの作り方」の動画を配信しました。動画では、画面の下に作り方のポイントの文字を入れ、簡単などころは早送りにし、難しいところはゆっくりにするなどの編集をしました。家に用具がない場合の代用品の使い方も動画に入れました。

高1国語総合（古典分野）

吉田桂子教諭

高校に入学して初めて古文を本格的に学ぶ時期に休校が続き、自宅で取り組む課題として文法問題や古文の文章題を出すことになり、解説動画を配信した。動画によって理解を助け、古文に抵抗感を持たせないようにしたいと考えた。また、同志社香里中学出身者と他中学出身者とは既習範囲が異なるので、香里出身者には文語文法の動詞を復習するための動画（レベル別2本）を、他中学出身者に

は動詞を新しく学ぶための動画を配信した。その結果、学校再開後、他中学出身者向けの補講の回数を減らし、その分成績不振者の補講の回数を増やすことができた。

5. 双方向型(Google Classroom)の導入について

Google Classroomは無料で、Google Drive（クラウドストレージ）が使えること、読み上げソフトが使えるのでプレゼンの練習になることなどのメリットがあり、以前から英語の授業だけでなく、語学研修や修学旅行に行く前に現地生徒とのメール交換やプレゼンの準備などでも利用していた実績がある。

休校期間延長決定により、昨年度から使っていた学年・教科を中心にGoogle Classroomも使い始めた。例えば高3英語（ライティング）では、英作文のテーマを提出させてネイティブ教員がコメントを返すほか、書き方に関する動画を配信しておき、授業再開後に提出させるようにした。

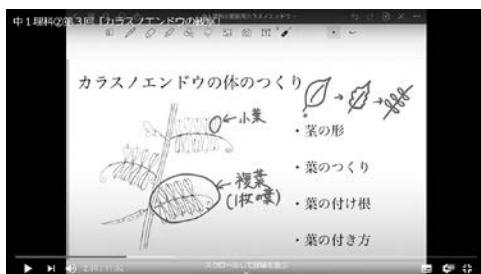
高1国語は学校再開後も月ごとに自主

学習課題を出し、それを解説した動画を配信している。動画にはGoogleフォームで作った問題を添付し、生徒が内容を理解できたか各自で確認したり、感想や質問を送信したりすることができるようになっている。

いる。

6月にはガイドラインを作成し、教員への研修会も2回開催した。生徒に対しては事前にGoogle Classroomの使い方を教えるプリントと動画を配信したうえで、学年ごとに説明会を設けた。

このように再び休校になった場合でも「学びを止めない」ための体制を整えている。



リアルタイムで手書き文字を

新型コロナウイルス感染対策下での高校2年音楽におけるリモート合唱の取り組み 「愛は勝つ」

同志社香里中学校・高等学校教諭

みずかみよういち
水上陽一

新型コロナウイルス感染拡大の3月以降、世間一般ではプロ・アマチュア問わず音楽演奏やコンサートは無観客公演に始まり、やがては公演延期や中止、ついには再開の見通しもつかない状態にまでなりました。人が集まって歌い演奏を行うことが世の中では困難となり個人練習のみ、特にフリースタイルのアーティストにとつては生活にも関わる状況にまで事態が進みました。しかしそんな中でもアーティストたちの音楽を人々に届けたい、音楽を通してこの困難の中でも世間の何か役に立たないかという気持ちは強く、オンラインによるリモート演奏がさかんに行われるようになり、それが世界中で大きな位置を占めるようになりました。

中学高校の音楽授業も6月の学校再開後は感染対策として「近距離で行う合唱及びリコーダーや鍵盤ハーモニカ等の管

楽器演奏」これらについては特にリスクが高いことから、実施については慎重に検討、とされました。本校でも世間で言われていた「歌わない」「演奏しない」いわゆる音楽を奏でない音楽授業を余儀なくされ、昨年まで普通に行っていた事が全て覆されることになりました。

音楽の授業で実技を行えない、これでは音楽授業の持つ意味が非常に薄いことに違いはありません。そこで今出来ること、即ち世間で大きな位置を占めるようになったこのリモート演奏を授業にどうにか導入をして、少しでも実技に代わるものにならないかと考えました。やがて世の中が元に戻るとリモート演奏の必要性もなくなります。今だからこそ出来ること、そして一つの経験として、高校2年生の音楽選択授業でこれに取り組みせることにしました。

本校高校2年音楽の目標はアンサンブルが中心です。例えば、生徒個人に校内の密集を避けた場所や自宅等で歌う画像を撮影してもらい、それをクラスの人数分画像と音声を重ねて一つの映像での合唱の形に仕上げるというものです。このような形であれクラス皆でアンサンブルを行えた達成感を少しでも味わってもらうことが出来ればと思いました。

本年度の高校2年音楽は芸術選択（音楽・美術・書道）によるそれぞれ合同3クラス、A B組（25名）、C D E組（44名）、F G組（26名）の週1時間で木曜日に3クラス共に授業を実施しています。

Ⅰ. 準備期間（4月～5月・緊急事態宣言休校中）

3月に入ると感染拡大の波もしいに大きくなり、新学期からの歌や管楽器の

実施困難が予想されるようになり、また、高校2年生の1学期はリコーダー四重奏を行うのですが、これも難しいことを実感し始めました。何かこれに代わるものが出来ないか。そんな中、テレビ等のメディアでは世界中のアーティスト達のリモート演奏が多く紹介されるようになっていました。これを授業で出来れば、集まって演奏しなくても画面上であるがアンサンブルに仕上げる事が出来ます。

まずは取り組み易い歌で始めてみることにしました。選曲は、このような時世に必ずと言ってても良いほど登場するKANの「愛は勝つ」です。この高校2年生、私自身、今年度初めて担当する生徒達であり、果たして上手く取り組んでくれる



Google Classroom

のかという心配もありましたが、現実さうも言っていられません。

取り組み方としては、伴奏音源をパソコンやタブレット等で鳴らしたものをイヤホンで聴きながら歌う自分の画像を、別のタブレットや携帯で撮影してもらいます。画像の提出はGoogle Classroomが使い易さの面でも妥当かと思いい、高2音楽クラスを立ち上げました。これならたとえ休校が続く、家庭学習の状態のままとなつても生徒達とやり取りが出来ます。伴奏音源は私自身がピアノを弾き録音をしてこれにアップロードをしました。

2. 6月4日(木)、11日(木)、分散登校(第一時間目)

6月より学校再開、各クラス半数ずつの分散登校期間が始まり、2週間かけて第1時間目を行いました。ここでは感染拡大下におけるこの数ヶ月間の世界の音楽の変貌について、ポピュラー、クラシック共にYouTube等で配信されている動画を見せながら認識をさせ、現在世界で行われてきたリモート演奏の紹介をしました。第1時間目ではリモート演奏

の意義を理解してもらうことが出来たように思いました。

3. 6月18日(木)、平常授業(第2時間目)

3週目からは全校生徒揃つての授業再開です。この授業では学校所有のiPadを1人1台ずつ使用させてGoogle Classroom高2音楽クラスにまずは全員参加をさせました。そして各自数秒程度の短い自分の画像を撮影させ提出を試みてもらいました。生徒によつては操作提出に少し時間はかかりましたが、3クラス共に全員無事にオンラインでの提出が出来ました。今の高校生、ITC機器に結構強く、思った以上にスムーズに授業が終了しました。次回より本題の撮影、そして提出作業に入ります。

4. 6月25日(木)、平常授業(第3時間目)

本日授業より「愛は勝つ」の撮影開始です。まずは原曲を聴き歌えるようになってもらいます。その後、各自教室外の歌うことにより飛沫や接触面等で生徒同

士に影響のない場所、例えば校舎外や他の授業に影響のない校舎内の換気が良く、人同士の距離を保てる場所等を見つけて移動させ、撮影に取り組ませました。撮影には iPad が2台必要（伴奏音源を聴くもの、撮影するもの）となるので複数2〜3人のグループで距離を取らせながら互いに撮り合うようにしました。



5. 7月2日（木）、 平常授業（第4時間目）

撮影の2時間目、前回同様に生徒たちは校内適切な場所を探して撮影に取り組みました。自宅で撮影した生徒もいれば、何度が撮影をして一番良いものを選んでいた生徒もいました。Google Classroomは提出のやり直しが何度でも可能なのが使い易い面です。

この撮影動画の提出締め切りは7月5日（日）17時、日曜日の課題提出というものもオンラインを使用した授業ならではのあつてもいいかと思いました。その後、約4分の歌唱動画が全員無事に提出されました。

6. 7月9日（木）、 平常授業（第5時間目）

編集時のリモート多重動画制作にはローランドのアプリ4xCameraを使用、これにより4人同時に歌う合成動画制作が可能です。生徒一人ひとりの歌声と口の動きを見ながらまずは4人ずつ同時に歌う動画を作り、それを四つずつ組み合わ

せ、これを繰り返してクラス全員が一つの画面で同時に歌う合成動画を作ります。繋ぎ合わせにはiMovieを使用し、iPadを用いて全て作業を行いました。編集作業はこちらで行いました。生徒は各自練習し自分の動画を撮影、オンラインで提出、これだけでも実技科目としての十分な意義があるのではと思います。

9日（木）の授業で、出来上がった3クラスそれぞれのリモート合唱動画を各選択クラスで鑑賞しました。歌は出席番号順に4人ずつのリレー形式で始まり、盛り上がり部分では全員の登場です。生徒達は、自分の歌う姿が映るのを恥ずかしがりもしましたが、むしろ、喜ぶ様子が多く見られました。

7. まとめ

今から半年前、まさか音楽でオンラインを使った授業をすることになるなど全く予想もしていませんでした。この事態の中で必要に迫られたからこそ実行に踏み切りました。やがて世の中がコロナ収束を迎えると、音楽も今まで通り集い歌い、大勢の観客の前で演奏が出来るよう



2年AB組



2年CDE組



2年F G組

になり、リモート演奏の必要性もなくな
っていきます。今だからこそ出来るもの、
そして彼らの高校時代の一つの世の中の
危機に対する経験として、将来少しでも
このことを思い出してもらえたらそれで
十分かと思います。また、このような取
り組みも今の高校生には十分可能であり、

音楽授業における一つの可能性も生まれ
たことに違いありません。
今回は初の試みでしたので全員同じメ
ロディーを歌唱しました。まだ今後暫く
はこの世の中の状況が続くと思われます。
今後は第二段として、谷川俊太郎作詞の
合唱曲「春に」を混声三部リモート合唱

として取り組むことを現在考えています。
最後に、今回自宅で撮影して提出をし
てくれた女子高校生たち、唇や頬などの
顔色が非常にきれいに色づいていました。
これもオンライン授業ならではのあつても
いいのかな、と思いました。

(二〇二〇年七月)

磐上館

(同志社大学)



磐上館は、1986年4月の田辺校地（当時）開校に際し、主に正課保健体育教育の拠点として体育地区の中心位置に建設されました。

その後、当初建築の建物（延床面積1539㎡）に加え、スポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科開設時の2008年4月（延床面積2675㎡）、および2014年4月（延床面積1794㎡）の2回増築・改修を行い教育研究拠点機能の強化を図っています。

こうした増築・改修を経ながら、同館は、主にスポーツ健康科学部・スポーツ健康科学研究科の教育研究拠点として演習や初年次教育授業を行うことができる「演習室」、最新のスポーツ科学を学修することができる各種「実験室」、スポーツ健康科学の専門書やスポーツ雑誌が保管されている「書庫」、フィットネスやダンスなどの身体運動が可能な「多目的実習室」、大学院生の発表会などができる「カンファレンスルーム」、学生の自習教室である「ラーニングテリア」などが設置されており、多くの教員、学生に活用されています。

館名は、新約聖書マタイによる福音書第7章24節「さらば凡て我がこれらの言（ことば）をききて行ふ者を、磐の上に家をたてたる慧き人に擬（なずら）へん」に由来しています。

シャロームハウス

(同志社幼稚園)



園庭



図書館

シャロームハウスは、2020年3月27日に竣工式を迎え、同年4月より開園された同志社幼稚園の新園舎です。「シャローム」はヘブライ語で「ここにちは」と「平和」を意味し、京都御所東の「梨木校地」に2018年まであり続けた「フレンドピースハウス(旧ハワイ寮)」の設立理念に由来しています。地上二階建ての建物で、一階には五つの保育室とホール、調理室が配置され、二階・地下には十分な広さの倉庫を備えています。園舎内は大きな窓から明るい日差しが差し込み、高い天井、そして、ゆつたりとした空間が特徴のオープンスペースに囲まれています。異年齢の園児が自由に出会い、様々な出会いのなかで一人ひとりが成長していくことを願っています。

園舎を出ると御所の木々が美しく、豊かな自然を感じる園庭が広がっています。沢山の樹木や芝生ではかくれんぼ、虫探し、草花摘みなど、自然の移り変わりを肌身感じられます。シャワースペースでは、泥遊びで汚れた体を洗ったり水遊びをしたり、開放的な遊びを楽しむことができます。野菜や植物を育てる菜園、四季折々の食育のための「かまど」、ツリーハウス、小屋やベンチなどの隠れ家のようなスペースなど、子どもの意欲・好奇心をくすぐるたくさんの仕掛けの中で、子どもは自ら考え、ワクワク・ドキドキ感を持って、じっくり遊びこみながら生き生きと活動していくことでしょう。豊かで充実した環境の中で一人ひとりの探求心を育み、主体的に遊びを作り上げる創意工夫を援助するような教育が出来ればと思います。

クラーク記念館の建築資材

イギリス・ブレナヴォン製鉄所製レール、琵琶湖疏水用 刻印レンガ、ドイツ製ボルト



刻印「疏」入りレンガ



刻印「BLAENAVON 1877」入りレール



刻印「GERMAN」入りボルト

同志社を象徴する建物の一つであるクラーク記念館は、一八九四（明治二七）年に開館し、一九七九（昭和五四）年に重要文化財の指定を受け、その後二〇〇三（平成一五）年から約五年をかけて大規模な修復工事が行われた。その修復工事の過程で、建物内部に使用されていた様々な資材が発見されている。今回、そのなかでも上記の三つを取り上げ、同志社の建築物に使われるまでの過程を紐解いてみたい。

クラーク記念館は、ドイツ人建築家ゼール（Richard Seidl）が設計し、京都・上京区の大工小嶋佐兵衛が施工を請け負って建てられた、ドイツ風ネオ・ゴシック様式の建築物である。

さて、イギリス製のレールに、ドイツ製のボルト、琵琶湖疏水用の刻印の入ったレンガ…これらには何ら共通するものが無いように思われる。これらの資材がなぜクラーク記念館に使われたのか、それを結ぶ一つの手がかりとして浮かび上がるのが、藤田財閥の創立者・藤田伝三郎、大倉財閥の創立者・大倉喜八郎、そして渋沢栄一である。

『重要文化財 同志社クラーク記念館修理工事報告書』にあるように、ブレナヴォン製鉄所製のレールは、一八七五（明治八）年から一八八〇（明治一三）年にかけて建設された官営金石鉄道のために、イギリスから輸入されたものであると考えられる。ほどなくして同鉄道は、製鉄所の廃業とともに一八八二（明治一五）年に営業を停止し、阪堺鉄道（現、南

海電気鉄道株式会社）へ払い下げられた。この阪堺鉄道の創設に貢献し、払い下げを申請したのが藤田である。阪堺鉄道は一八八九（明治二二）年から一八九七（明治三〇）年にかけて、それまでの軌間八三八mmから一〇六七mmへレールを改軌しているため、クラーク記念館が建設されるころには、阪堺鉄道で不要となったレールを使用することが可能であった。阪堺鉄道の設立から二年後の一八八七（明治二〇）年、藤田が大倉や渋沢とともに設立した日本土木会社（現、大成建設株式会社）は、琵琶湖疏水の閘門とトンネル工事を行っている。つまり、琵琶湖疏水の建設に際して余剰生産されたか、何らかの理由によつて不要となったレングスを保有していたのであろう。さらに言えば、日本土木会社は、琵琶湖疏水や日本鉄道、九州鉄道（現、九州旅客鉄道株式会社）建設時に必要な資材を、横浜のドイツ系商会のイリス商会（現、C. Illies & Co.）を通じてドイツから輸入していた。そのため、ドイツ製のボルトを輸入していたとしても不思議はない。なお、大倉も渋沢も、一八八八（明治二二）年に公表された「同志社大学設立の旨意」に寄付者として名を連ねている。

こうしたことから、クラーク記念館の建設工事を請負った小嶋佐兵衛の他にも、資材を提供もしくは調達した日本土木会社、後継の大倉土木組の存在が見え隠れ

するのである。

当時、日本には大型の鉄鋼製品を生産する技術も設備もなく、レールもすべて輸入に頼っていた。そのため、たとえ使用済みであつても、レールのような鉄鋼製品は貴重な資材であり、大型の西洋建築であるクラーク記念館の建設に転用されたと考えられる。ブレナヴォン製鉄所製のレールは、日本国内において現存数が少なく、その中でもクラーク記念館のものはとくに古い。今後も大切に受け継いでいきたい資料である。

参考文献

- 京都府教育委員会『重要文化財 同志社クラーク記念館 修理工事報告書』京都府教育庁指導部文化財保護課、二〇〇八
- 野田正穂、原田勝正、青木栄一編「阪堺鉄道経歴史」（『明治期鉄道史資料』第二集 第三巻、日本経済評論社、一九八〇）

Johannes Bähr, Jörg Lescenski, Kaija Schmidpott, Handel ist Wandel: 150 Jahre C. Illies & Co., München: PIPER, 2009

同志社社史資料センター

JICA・同志社ラグビーインド派遣・ 政策学部海外フィールドワーク・ オンライン帰国報告会

大学政策学部教授 川井圭司 かわい けい じ



まず、第1部の短期隊員8名による報告では、現地での活動内容とそのでの出会いやハプニング、国際協力意義、今後の課題、派遣後の心境の変化、各隊員の学びなどについて、自らの言葉で、思い思いに語られた。次に、長期隊員としてインドに派遣された加藤達也隊員から、海外協力隊の志望動機、派遣前の準備と現地での活動内容、そしてその

JICA・同志社大学体育会ラグビー部インド派遣および政策学部海外フィールドワークの帰国報告会が、6月19日（金）に実施された。オンラインという初めての試みであったため、JICA、日本ラグビーフットボール協会、同志社大学関係者に限定しての案内となったが、当日は約160名の参加があり、プログラムへの関心の高さがうかがわれた。
臨場感溢れる学生のプレゼンテーション



述べられた。

第2部の政策学部海外フィールドワークメンバーによる報告では、海外協力隊員らと協働で実施したブナネシユワールでの活動の他、チェンナイ・コルカタ・ニューデリーでの活動について、海外協力隊員とはまた違った視点から、それぞれの学びについて日記形式でわかりやすく紹介され、ユーモアと工夫に溢れる報告となった。

1・2部を通じて、臨場感溢れる学生の語りが印象的であった。届けられた心温まるメッセージに派遣前の表敬訪問で、派遣メンバーを激励していただいた京田辺市長の上村崇氏からも愛情を感じる温かいコメントが寄せ



成果などについて、具体例を挙げた説明があった。またコロナの収束後、インド派遣再開に向けた抱負と具体的な目標が述べられた。

学生から琴線に触れた経験が語られたことに加えて、その活動を支えてくださった関係者から心温まるメッセージが多く寄せられたことで、オンラインでありながらも一体感のある報告会となり、また当プログラムの可能性とエネルギーを再認識する時間となった。



報告会の内容にご関心のある方は、以下のQRコードから動画にアクセスしてください。

<https://youtu.be/IYOYMPUJzs>

(総編集)

<https://youtu.be/kRX7AH-SBQ> (本編)



京都木津川マラソン大会 ボランティア

社
志
同
ナウ

女子大学ボランティア活動支援センター

女子大学のボランティア活動支援センターは、本誌148号にてガーデニングボランティアの取り組みを紹介いたしました。今号では、2020年2月2日（日）、京田辺市内の木津川運動公園で行われました京都木津川マラソン大会でのボランティア活動についてご紹介いたします。

このマラソン大会は今年で第37回となります。当センターが昨年続き、学内でボランティア参加者を募集したところ、15名の応募がありました。また、大会事務局から要請があり、会場アナウンス係として1名が参加しました。

活動は、スタート前のプラカード持ちに始まり、ゴールランナーに対してタイムを記載した完走記録証の発行、ゴール地点でのドリンク提供、休憩所での温かい京うどんの提供を行いました。好天のもと、ランナーをさわやかに迎え、

おもてなしをしました。大会事務局の方から「大きなスポンサーのつくマラソン大会とは違い、本大会は市民の手作り。若い学生のみなさんがはつらつと活動し温かみのある大会になりました」とお言葉をいただきました。

参加学生のアンケートでは、

「『あなたたちのおかげで走れました』という言葉ランナーからいただき、頑張りました」「皆さん、とても輝いていて優しい。年に1回はさみしい。もっとやりたい!」「自分のアナウンスの特技でお役に立てることが嬉しい」といった声が寄せられ、達成感や充実感を得ている様子でした。当センターでは、京都木津川マラソン大会

のほか、祇園祭ごみゼロ大作戦のボランティアにも参加し、地域社会との連携を深めています。今後は、学生たちが地域社会にある課題を取り上げ、その解決を目的にチームで知恵を出し、取り組むようなボランティア活動を推進したいと考えています。



スタート前のプラカード持ち



完走記録証発行



ゴール地点での給水



会場アナウンス

ある朝、目が覚めたら植物になっていた？！

こじまめいこ
中学校・高等学校教諭 小島明子

同志社中学校の理科では実物を中心に置き、体験を通した学びを大切にしています。中学1年生の1学期は学校生活が始まり、色々な緊張の中で、初めての定期考査を5月末に迎えます。昨年度は、4月から植物学習を行い実際に採取しスケッチ・顕微鏡観察や押し葉標本作成などをしてきました。

一緒に担当している吉岡綾子先生が授業中学生徒へ「植物に生まれ変わるなら、何がよい？」と問いかけをしたとき、想定を超えた回答（ミドリムシやコンブなど）が様々返ってきておもしろかったと聞き、それを考査の問題として取り上げることにしました。

考査前の授業で事前に出題文と例を配布し、カフカ『変身』の文頭のインパクトや、植物ならではの視点とはどんなものかなどを交流しました。学んできた植物の様々な形態・繁殖や生き残りの方法などを含めること、その植物の生息環境と花・根・茎・葉の特徴を必ずいれてもらうようにしました。また物語をより表現するため

配布した問題文 予告問題 『変身』をバクろう！

ある朝、グレーゴル・ザムザがなにかがかりな夢から目をさますと、自分が寝床の中で一匹の巨大な虫に変っているのを発見した。彼は躍のように堅い背を下にして、おおむけに横たわっていた。頭をすこし持ちあげると、アーチのようにふくらんだ褐色の腹が見える。

『変身 / カフカ著；高橋義孝訳・（新潮文庫）より抜粋。』

今後も、生徒同士はもちろんですが、親子の話題にあがるような、自由なアイデアや発想を引き出せるような問いかけ、正解や不正解のない問いかけを学習内容に応じてつくりたいと思えた取組みでした。

教員が想定した範囲を軽々超えてくる中学生の発想をのび

の挿絵イラストも設定しました。考査前から生徒の「こんなストーリーにしたよ」や「○○さんのアイデアすごいだよ」などの発言があり、テスト返却の際も、テストの点数の結果だけで終わらず色々なストーリー・アイデア・植物等の回答を紹介し、クラスで交流できました。また今回は国語の先生と作品を見ながら教員間で生徒観を話せました。

- ある朝、目が覚めたら自分が植物になっていた。次の文章を完成させなさい。
- ある朝、（自分の名前）が A な夢から目をさますと、自分が B で、 C になっているのを見つけた。彼・彼女は、D（続き・・・）
- A: どんな印象の夢でしたか。
B: 具体的な場所（同志社中学校校舎の近く、グラウンドの近く、砂漠、南極大陸、川の上、池の中、畑や田んぼなど）
C: 植物名（カタカナ）
D: 続きの展開（花・葉・根などについての特徴をいれること（その他の特徴でも OK、増え方、光取り競争の戦術、他の生き物との関係性、共生、防衛の工夫 など）
E: イラスト この小説の冒頭シーンの挿絵（イラスト）を描いてください。その際、Cの植物も入れてください。



のびと開花させるには、いかに自由なアイデアを封印させないか、生徒の個々のらしさをどれだけ肯定できるか、教員が試されて実感しました。

オンライン オープンキャンパス開催

社
志
同
ナウ

香里中学校・高等学校教諭 中條あさ子・古川佳世

2020年5月6日(水・休)に第1回、6月7日(日)に第2回の「春のオンラインオープンキャンパス」を開催した。新型コロナウイルス感染症防止のため、例年とは異なり、オンラインでの実施となった。第1回は500組、第2回は700組を超える参加者があり、盛況のうちに終了した。

第1回では、午前10時よりライブ配信で開会礼拝、学校概要紹介、昨年度の入試結果の報告を行い、11時頃からは各教科の紹介動画、360°ビューによる施設見学、高校入試ガイダンスなどを自由に視聴できるようにした。その後、事前申し込みのあった受験生・保護者30名と、Zoomを使用した個別相談を実施した。第2回は、第1回の内容に新たにクラブ紹介動画を加えて閲覧できるコンテンツを増やし、また、Zoomを使用して校長と1グループ6名の保護者との教育座談会も行った。

初めてのオンライン開催で、試行錯誤のうえでの実施であったが、Zoomを通して対面して質問を受け付けられたことや、複数の教科やクラブの紹介動画を閲覧でき



■特設サイト(礼拝)
オンラインオープンキャンパス当日にYouTubeにて礼拝・校長奨励のライブ配信



■特設サイト(クラブ紹介動画)
一部のクラブの生徒が紹介動画を作成。自由な校風や生徒主体で活動している雰囲気が出て大好評



■Zoomによる個別相談①②
事前申込制で、当日Zoomを用いて入試担当者や受験生・保護者で20分程度のオンライン個別相談を実施



■特設サイト(教科紹介動画)
第1回、2回ともに各教科の紹介動画を配信。先生方の個性が出て大好評



■特設サイト(キャンパスツアー)
360°ビューカメラで撮影した施設のなかに校長がパネルをもって隠れており、ゲーム感覚で施設見学ができる。小学生に大好評のイベントの一つ

たことなど、オンラインならではの良さもあった。例年のオープンキャンパスでは体験できる授業・クラブの数や見学できる時間が限られるため、たくさんの方の授業・クラブに触れたり、隅々までじっくりと施設を見学したりできたのは、オンラインのメリットだと言える。

参加者アンケートによると、内容に対する感想のほか、特に第1回は緊急事態宣言の発令中であつたため、「学校も習い事もすべてが休みで単調な日々の中、オープ

ンキャンパスが唯一の楽しみとなつた」という意見もあり、このような状況下での開催には苦慮するところも多かったが、本校の魅力や教員の熱意を伝える良い機会となった。今後の状況によつては、オンラインをうまく活用していくことは必須になると予想される。在校生とも受験生とも繋がることのできるツールとして、広く活用していきたい。

全日本室内アーチェリー 選手権大会で優勝！

女子中学・高等学校教諭 山田^{やまだ}慎^{しん}吾^ご

2月15日（土）～16日（日）、

山形県鶴岡市小真木原総合体育館で開催された、第29回全日本室内アーチェリー選手権大会において、同志社女子中学校アーチェリークラブの道浦奈緒子さん（当時中学3年生）が、小中学生の部で優勝という素晴らしい成績を収めました。

この大会は、過去1年間の公認記録から選ばれた上位12名（小中学生の部）しか出場できず、出場するだけでも困難です。道浦さんは大会出場が決まる前からこつこつとフォームの改善に取り組み続け、大会直前には注意するポイントを絞って、それ以外のことに気持ちを向かないように練習してきました。

予選ではなかなか調子が上がらず、予選通過のボーダーラインである4位のあたりを行ったり来たりしていました。1点差、2点差

の中を何人もがひしめく接戦の中、最後の3射で高得点を出し、なんとか4位で予選を通過することができました。次の日の決勝トーナメントでは、前日の苦戦が嘘のように高得点を連発し、見事優勝を勝ち取りました。

今年は、過去に本中学校からこの大会に出場し、優勝・入賞してきた高校・大学の先輩も一般の部で出場しており、試合中も声をか

けてくれたり、決勝では同志社大学の部員とともに応援してくれたりと、初出場の道浦さんにとって心強い味方になってくれました。自身の試合中でも後輩のことを気にかけてくれた先輩の心遣いに感謝し、その背中を追いながら、いずれはその先輩たちを追い越し、世界に通用する選手になるのが道浦さんの目標です。



決勝戦での道浦さん



表彰式での写真



大会に出場していた先輩と

同志社幼稚園新園舎開園 ～新たな環境での育ちと学びを模索して～

同志社
ナウ

幼稚園教諭 竹中琴恵 たけなか ことえ

2020年4月、同志社幼稚園は新園舎で新学期を迎えました。4月に緊急事態宣言の発令に伴い幼稚園も休園を余儀なくされ、6月からようやく再開、2か月遅れの新学期となりました。

年少児は、教師や友達の話や聞いたり、自分で経験したことや考えたことなどを言葉で伝え合うことを楽しんでいきます。豊かな言葉や表現を身につけ、友達と心を通わせていきます。年中児は、自分たちを取り囲む様々な人や環境から刺激を受け、心を動かす経験を重ねています。様々な素材で描いたり、作ったりするなど表現を楽しむことで、豊かな感性が養われていきます。年長児は、遊びの中のびのびと活動し、体を動かす楽しさと充実感を味わうことができます。機会をたくさんもっています。また、互に関わりを深め協同して遊ぶ中で、自己を発揮しつつ友達と折り合いをつけながら、自分の気持ちを調整したり、人への信

頼や思いやりの心が育つことを目指しています。

残念ながら、想定外の新型コロナウイルス感染症拡大防止のため諸行事を行うことが難しく、今年度は各学年が1学期の締めくくりとして、それぞれが積み重ねてきたものを園児同士で各学年別に分かち合う機会を設けるなど、今までにないコロナと共存するための教育内容を模索しています。

「新しい生活様式」を守りながらの保育は様々な配慮が求められ、子ども同士がふれ合いながら遊びを展開していくことや、関わりを深めていくことが難しくなります。そのような中で子どもの発達を保障するために、これまでとは違う保育を行う



御所に出かけ、広い場所で自然の空気をいっぱいに吸いました。



ソーシャルディスタンスを保った保育の一場面です。

ていかなければなりません。このような状況下だからこそ、ワクワク・ドキドキと心を弾ませるような新しい保育の経験をし、友達と共に遊びを深めていくことが大切です。豊かな自然環境に囲まれた、広々とした園舎の中で、自分だけでなく相手のことも大切に優しい心や、自分で考え行動に移す主体性と環境に働きかけ新しい遊びを生み出し発展させていく「生きる力」を育む保育を実現していきたいと思っています。

本書では、平成後半の民主党への政権交代と自民党の政権復帰の時期に一つの焦点を絞りつつ、1980年代以後の日本政治に対する市民の意識、2000年代以後のアジアと世界の政治意識のデータ分析をタテヨコに織って加えることで、より広大な観点から現在の日本人が置かれた政治心理的な現実感覚、つまりリアリティ認識を検討した。二度の政権交代を経る中で、日本人の投票行動は投票しても良いと考える複数政党の選択の幅が狭まり、政治選択が乏しくなっている。これを同志社にも

池田謙一（大学社会学部教授）著

統治の不安と 日本政治のリアリティ ―政権交代前後の底流と国際比較文脈―



木鐸社
4,000円(税抜)
ISBN 978-4-8332-2531-1

在籍されていた三宅一郎学士院会員の「政党支持の幅」という研究の拡張として明らかにした。また「日本は特殊」と考える日本人やメディアは数多いが、実証は少ない。本書ではその特異さを政治を対象に、アジア・パロメータ調査と世界価値観調査という大規模な国際比較調査の中で統計的に検討した。日本はアジアの中にありながら、アジアの人々が持つ共通の価値からは西欧的な方向にずれており、民主主義的価値を十分に受け容

れている点で特殊さはない一方、「統治の不安」という特異な心理を持つことが明らかであった。政治の業績の低評価によつて生じる政治不信は西欧先進社会と共通して日本も高いが、政治や政治家が将来ともに社会を運営していけるだろうかというリスクの認識は日本が世界で飛び抜けて高い。これが統治の不安であり、新型コロナウイルス禍の中でもまさにその現象が生じており、それが日本人のコロナ災禍への不安を特徴的なものとしている。

著者より

2040年 大学教育の展望

―21世紀型学習成果をベースに―

山田礼子（大学社会学部教授）著



東信堂
3,500円(税抜)

知識基盤社会の到来を背景に、高等教育や人材育成制度の変革を目指して、世界の多くの国々において既存のシステムを再構築する政策が共通して推進されている。日本でも新しい社会を示す用語として「ソサエティ5.0」が浸透している。今後の大学教育は、新しいソサエティ5.0に対応できるような文理融合をも含め、かつグローバル社会に対応したカリキュラム、教授法、そして新たな社会人への教育を見据え、再構築していくことが求められる。本書は、21世紀型学習成果を視野に置き、そうした学修成果を習得させる

ための大学教育の方向性を提示する。2018年に公表された中央教育審議会の答申『2040年に向けた高等教育のグランドデザイン』では、2040年の展望と高等教育が目指すべき姿として「学修者本位の教育への転換」が重要なコンセプトとして取り上げられた。学修者本位の教育の意味は、重層的、複雑な抽象的でもあり、定義することは容易ではない。しかし、本書でも示しているように、21世紀社会やAI時代が必要とする能力やスキル概念をカバーできるような学修成果を大学教育は学修者に身につけさせることがその一つの要素であると思う。本書は、「生涯学習と大学教育」「大学教育の新たな方向性」「学修成果の把握とマネジメント」「新段階の初年次教育」「IRの役割とその意味」という5部から構成されている。5部全体を通じて、21世紀社会での学修成果の方向性と大学教育の在り方を、社会人、大学生、そして各国の教育政策動向の比較から把握できることを企図している。

著者より

抵抗者の物語

初期アメリカの国家形成と犯罪者の無意識

白川恵子(しろがわけいこ) 著

本書は、アメリカ国家生成・独立建国に際しての矛盾と、矛盾ゆえに強調される独立宣言や憲法の「理想的」言説が、以降、いかに叛逆者精神の提示を伴う物語群や関連する事象の挑戦をうけていったのかを、「体制への反抗精神の発露を示す物語」、「叛逆の暴力と愛国的雄姿との脱構築」といったテーマのもと、多様なテクストの具体例から探ることを目的としたアメリカ文学・文化についての研究書である。

本書は、単に特定の文学理論に基づく精緻なテクスト読みの提示を行うだけでなく、前述



小島遊書房
3,800円(税抜)

のテーマの具体例を各章に求め、その際に、恐らくは従来、分析対象となりにくかったエピソードや文学テクスト群を複合的に重ねつつ、アメリカ史、アメリカ文学史の目立たぬ側面に光を注ぐ。

初期アメリカの国家形成過程、例えば、セーラムの魔女狩りの折にニューイングランドで展開されていた先住民との数多の抗争、ワシントン神話が紡ぐフレンチ・アンド・インディアン戦争から独立戦争までの植民地戦争、インディアン・ピース・メダルによる欧列強諸国ならびに先住民部族との「外交」政策、アンテベラムの都市問題に対する批判と南部奴隷制を巡る南北の対立およびその解決方法としての西方への領土拡大、ダブル・パッシングした元奴隷と白人女性によるインディアン・パフォーマンス事例から見るモルモン教の生成と人種との相関といったアメリカの基盤形成の歴史が、文学史上黙殺されてきた大衆文学作品とともに提示される。

著者より

源氏物語といけばな
源氏流いけばなの軌跡

岩坪健(いわつづけん) 著



平凡社
1,000円(税抜)

源氏流華道とは、十八世紀後半に江戸で千葉龍トが始めた一派であり、初めて活け花に源氏物語を取り入れたことで、世間の注目を浴びた。そのため一時は一世を風靡したが、二代目で断絶して、十九世紀になると廃絶した、というのが通説であった。ところが実際には子孫は故郷(兵庫県赤穂市)に帰り、家業を伝承して伝書も秘蔵していたのである。本書には千葉家の御許可を得て、本邦初公開の資料を多く掲載した。

千葉龍ト自筆の写本は千葉家以外には残っていない、と思わ

れていた。けれども奈良県大和郡山田市にある柳沢文庫にあることを教えてくださったのは、本学の卒業生で当文庫の評議員をされている小倉嘉夫氏である。

千葉龍トの死後も、源氏物語を活け花に取り入れることが流行し、龍野(兵庫県たつの市)では円尾遊龍が名を挙げた。千葉龍トが江戸で活躍したのに対して、円尾家は京都の公家の間で持てはやされ、下々の者に伝授するのを止める、という意味で「お止め流」とも呼ばれた。円尾家を庇護したのは鎌倉時代から続く徳大寺家であり、その屋敷は本学図書館の所にあつた。

円尾遊龍の高弟である大嶋宗丹の子孫は、今も宗丹が居を構えた所にお住まいで、資料も数多く所蔵されている。その中の一つ『源氏流極秘奥儀抄』は、源氏物語の内容に合わせた活け方を紹介している。それを院生と輪読して活字にして現代語訳と注釈も付け、本学の雑誌「人文学」に連載中である。

著者より

日系カナダ人の 移動と運動

和泉真澄^{いずみ まさみ}
(大学グローバル・カルチャー研究科・地域文化学部教授) 著



小島遊書房
3,400円(税抜)

本書は19世紀末から現在までの日本からカナダへの移民の歴史を記述した、日本語でも英語でも初めての通史である。筆者は本書出版まで、第二次大戦中の強制立ち退きで破壊された日系人コミュニティの復興過程、強制収容の法的根拠となつた戦時措置法の撤廃と改正法の成立、1907年バンクーバー暴動の越境史的再解釈など、独自の調査に基づく個別テーマの論考を出してきたが、2014年に戦前の二世野球チームをモデルとした映画『バンクーバーの朝日』が公開された際に、いくつかのメディアから一冊でわかる日系

カナダ人史について聞かれ、執筆を決意した。多様な学問分野や方法論で書かれた研究を一つの歴史的叙述にまとめるために、「移動と運動」の意味を掛け持つ「Movement」をキーワードとした。戦前期の章は大部分が先行研究に依拠しているが、セトラ・コロナリズムや越境的転回などの概念を用い、カナダ西部社会の建設過程の中に日本からの移民の流入を位置付けた。戦中から現在までの日系人の活動／運動に関する記述はほとんど筆者自身の調査に基づいている。日系人の活動を、単なる時代の変化としてでなく、カナダの多文化主義社会への変貌を後押しし、多文化主義の真の意味を世に問うた運動として分析し、その能動性を明らかにした。日系人の顔が見えるように、各章の冒頭は個人に関する記述から始めている。カナダ史は日本であまり知られていないので、読者が多様性を認める社会が構築されていった過程について考える一助となれば嬉しく思う。

著者より

国境を越える

ラテンアメリカの女性たち

ジェンダーの視点から見た国際労働移動の諸相
松久玲子^{まつひ りょうこ} (大学グローバル・カルチャー研究科・名誉教授) 編著



見洋書房
2,500円(税抜)
判型 A5 頁数 264頁
ISBN 978-4-7710-3248-4

世界中、そして日本においても、すでに外国人労働者の貢献なしに社会が回らなくなっている。本書は、かつては日本人移民の受け入れ地域であり、現在は世界的にも多くの移民労働者の送りだし地域であるラテンアメリカの国際移民をテーマとしている。研究対象とするのは、中南米諸国からアメリカ合衆国などの先進国への域外移動とラテンアメリカ諸国間の域内移動で、そこでの国際分業体制をジェンダーの視点から論じている。表紙に描かれたオオカバマダラ蝶は、海を渡り国境を越えて働

く女性たちの姿をイメージしたものである。

本書では、ラテンアメリカ地域の国際労働移動を俯瞰的にとらえ、メキシコ、中米からアメリカ合衆国、コロンビアとキューバからヨーロッパへのラテンアメリカ移民の窓口となっているスペイン、そして中米からメキシコ、ニカラグアからコスタリカ、コロンビアからチリ、南米周辺国からアルゼンチンへの事例をとりあげている。そして、その中でもつと脆弱な環境に置かれた女性移民が労働市場に組み込まれるプロセスと女性たちが直面する様々な問題を現地調査により明らかにしている。

コロナウイルスによるパンデミックは、移民労働者にも大きな影響をおよぼしている。移民受け入れ国で移民が直面する社会的格差による偏見や経済的打撃が、脆弱な立場にさらに追い打ちをかけている。ここで紹介した具体的な事例が、移民労働者への権利保障につながる一助となることを願っている。

著者より



上智大学出版
2,750円(税抜)

ラテンアメリカの連帯経済 コモン・グッドの再生をめざして

宇佐見耕一(大学グローバル地域文化学部教授) 他著

ラテンアメリカは、世界的に見ても所得格差が大きく、広範な非正規雇用や貧困層、また先住民が社会に存在している。こうしたラテンアメリカ社会の特色は、従前からあったが、1990年代に全域内に導入された新自由主義に基づく諸政策により、市場での競争がより強まり、そこで敗者、底辺での参入者、またそもそもその競争へ参入できない人々等の社会的排除の問題が社会的イシューとして公論化するに至っていた。

連帯経済論は、フランスを中心としたヨーロッパとラテンアメリカにおいて議論が活発化し、それが交流しつつ発展していった。代表的論者としてはフランスのラヴィル(J. T. Laville)やア

ルゼンチン出身でエクアドルで活躍しているコラツジョ(J. Coraggio)などがある。コラツジョの考えでは、現代経済は公的経済、資本制の企業経済および民衆経済から構成されえる混合経済であるとする。民衆経済とは、労働者・その家族・基礎的コミュニティの生活を再生産するきわめて多様性に満ちた部門である。他方、社会的連帯経済とは、民衆経済のみにとどまらず、他の二部門とも交差しているものである。また、社会的連帯経済は、個別の市場から排除された人々による労働を経済に再統合しようとするミクロレベル、経済システムの中で社会的連帯経済をサブシステムとしてようとするメゾレベル、そして現在の経済システムへの代替案を模索しようとするマクロレベルに区分している。

本書の目的は、そうした連帯経済の理論的考察のみならず、ラテンアメリカにおける地域に基盤を持ちコミュニティが主体性を持つ、助け合いの理念に基づくオルタナティブな経済のあり方の具体的事例を検討することでもある。事例としては、メキシコのフェア・トレードをはじめ、エクアドル、ペルー、コロンビア、ブラジルおよびアルゼンチンが扱われている。

著者より



大学教育出版
2,000円(税抜)

フェイクニュースに 震撼する民主主義 ―日米韓の国際比較研究―

松本明日香(大学政策学部助教授) 訳、他著

ポスト・トゥルース時代に生きる我々は、ソーシャルメディア空間とどのように付き合えばよいのか。フェイクニュースの渦中で、どうしたら民主主義を維持していくことができるのか。ネット選挙が徐々に進む日本の民主主義を、フェイクニュースの拡散はどのように変えるのか。本書では、比較政治学の観点から、フェイクニュースの構造的な要因について、分極化をキーワードに、メディア環境と政治環境の特徴から検討している。多くの耳目を集めたように、アメリカでは2016年の大統領

領選挙でフェイクニュースがトランプ大統領の誕生を彩ったが、その反省から2018年の連邦議会選挙である中間選挙では様々な施策が打たれた。本書の中では、これらのアメリカの状況と、韓国の2017年大統領選挙、日本の2017年衆議院総選挙と2019年参議院議員選挙を比較分析している。

それでは、フェイクニュースの渦から完全に逃れることができない中で、我々はどういう対応を講じることが可能だろうか。フェイクニュース対策としては、政府による規制の導入やプラットフォーム事業者による自主規制の実施、メディアや非営利団体によるファクトチェック、そして若者のメディアリテラシー教育の充実など様々な手段を複合的に組み合わせる必要があるだろう。そのため、研究者のみならず、メディア関係者、政治家、官僚、そしてソーシャルメディアを主要な情報源としている若者を含む幅広い層に是非手にとってもらいたい。

訳者より

東アジア海域から 眺望する世界史 ネットワークと海域

向正樹 (大学グローバル
地域文化学部准教授) 他著



明石書店
3,800円(税抜)
刊行年月 2019年10月

海外の「マリタイム・ヒストリー」は海に焦点をあてた歴史という色彩が濃厚であるのに対し、日本の海域史研究は既存の空間的枠組みへの批判と新たな歴史像の提示を志向し、グローバル・ヒストリーと相関性をもつ分野として発展してきた。一方で海域史は新たな閉鎖性を生む危険性ももつ。本書は、「フロア・ネットワーク」の視点から海域史研究の新たな可能性を探る。

「海域〇〇史」や「〇〇海域史」といった場合、〇〇には通常、地理名称が入る。そこに空間範

囲を限定する力が働き、新たな閉鎖性を萌芽させる。海域空間を構成する基盤は多様な移動の総体としてのネットワークであり、このネットワークこそが海域史の自己矛盾を生み出している。しかし、同時にそれは新たな歴史像を築く足掛かりにもなりうる。ネットワークとは点と線とで結ばれた構造物である。しかし、そこには領域を超えて広がるフロアがある。

モンゴル時代のユーラシア交流のなかで拡散したムスリムは、移住先において、故郷から遠く離れた存在として自らを規定するディアスポラ・アイデンティティを形成した。中国港市を起点にネットワークを張り巡らせるムスリムたちの「さすらい人」殉教者」という伝承はやがてこれらのネットワーク上を広がっていく。まずフロアの広がりに着目し、それが「東アジア海域」という空間範囲をはみ出していくさまをとらえ、それが作り出す多様な関係性を明らかにすると、海域史研究が自己矛盾を乗り越え、新たな歴史像を描き出すのだ。

著者より

空とアメリカ文学

藤井光 (大学文学部教授) 他著



彩流社
3,200円(税抜)

情報飛び交うようになった二十一世紀から振り返ったとき、アメリカ文化は「空」という場をどうとらえ、物語にしてきたのか。それが、本書『空とアメリカ文学』の大きな問題設定である。ハーマン・メルヴィルやマーク・トウェインといった、日本でもよく知られた作家たちと「空」とのかかわりなど、知的刺激に満ちた論考が顔を揃えている。

「アメリカ」という言葉と強く結びついている風景のひとつに、蒼空を背景に見渡す限り広がる大地がある。その中央を地平線までずっと続く一本道、というアメリカ大陸のイメージは、合衆国ではいまだに愛され、繰り返し登場している。

とはいえ、アメリカ合衆国の現代史は、二十世紀に空の覇権を握ったことを抜きにしては語れない。第二次世界大戦以降に進化した航空機による人と物の大量移動が、二十世紀後半のアメリカの繁栄を後押しする原動力となったのだ。

そして、インターネットによ

著者より



社会評論社
3,800円(税抜)

歴史認識から見た戦後日韓関係

「1965年体制の歴史・政治学的考察」

太田修^{おた ひとし}
大学グローバル・スタディーズ研究科教授・他著

日本の植民地支配下に「徴用工」として軍需工場に強制動員された韓国人が新日鐵住金(現・日本製鉄)に損害賠償を求めていた裁判で、韓国大法院は二〇一八年一〇月に新日鐵住金に賠償を命じた判決をだした。安倍首相(当時)は「一九六五年の日韓請求権協定によって、完全かつ最終的に解決している。判決は国際法に照らしてありえない判断だ」とこれを批判した。その後、日韓の対立は経済、社会に拡大していった。

判決が画期的だったのは、それが「過去の克服」を志向するものだったからだ。筆者はみている。「過去の克服」は、ナチス・ドイツの暴力に対する戦後ドイツのさまざまな取り組みを総称する言葉として用いられ、南アフリカ、ラテン・アメリカ、米国、韓国などで、過去の暴力の真実究明や責任追及、謝罪と名誉回復、歴史記憶の継承、再発防止のための法的・制度的装置の整備に向けた議論や実践として深められてきた。この本質は、請求権協定で「解決済み」かどうかではなく、「過去の克服」がなされたかどうかである。

本書は、今日の日韓間の「過去の克服」をめぐる対立の起源となつている「一九六五年体制」を歴史学と政治学の側面から考えたものである。「過去」は単なる「歴史問題」ではなく、現在と未来の人の普遍的権利にかかわる事象なのである。

著者より



ナカニシヤ出版
4,500円(税抜)

民主主義の哲学 デューイ思想の形成と展開

加賀裕郎^{か が ひろ}
(現代社会学部特任教授)著

ジョン・デューイは20世紀アメリカ合衆国を代表する哲学者の一人であるが、公共哲学のパイオニアでもあった。なかでも1920年代における、ウォルター・リッップマンとの論争は有名である。19世紀を通じてデモクラシーを支える人びとは理性的公衆であると思われてきた。しかしリッップマンによれば、20世紀の人びとはメディアによって操作された虚像を現実と思ひ違っている人びとであり、理性的公衆は「幻影」である。これに対してデューイはリッップマンの指摘を部分的に認めながら、

理性的公衆を取り戻すことは、なお可能だと主張したのである。デューイは20世紀を代表する教育理論家であり、とくに民主的教育の力による公衆の再建を指向した。しかし20世紀を通して、必ずしもデューイが指向したようにはならなかった。むしろ現代はデモクラシーの危機という言説が一定の広がりを見せている。そうしたデモクラシーへの逆風のなかにあつて、熟議デモクラシーや闊技デモクラシーなどの新しい理論構築も試みられている。

本書は、近代社会においては善き生のあり方に関する多元主義は避け難く、そうした現実に対処するための共同的生の技法としてはデモクラシーが望ましいという基本認識に立っている。そのうえで、デューイの理性的公衆の再建の試みを発展させながら、デモクラシーの活性化の可能性を、デモクラシーの理論的根源に遡って成し遂げようとした。

著者より



クリエイツかもがわ
2,200円(税抜)

看護と福祉のはざまを紡ぐ へと向き合う、細井恵美子の信念と実践

すずめ ゆりこ
杉原百合子 (看護学部准教授) 編著

本書は、一人の女性の働きを通して、戦後日本の地域医療や看護の著しい変遷の一端を振り返る材料にもなる。細井恵美子氏は変化を推し進める当事者としてそのただ中であつて、その姿勢や人に対するまなざしが変わることはない。そこには、いかなる情勢や変化の中にあつても、「人」と「人ひとりの暮らし」を守り抜くという信念があつた。読者からいただいた書評の抜粋を紹介する。

「印象に残ったことが三点。一つ目は、細井氏が一人ひとりに真摯に向き合い、かつ、社会の仕組みや時代の流れに目を向けてきたこと。いわば「虫の目」と「鳥の目」の両方を備えている

こと。透析がないために亡くなった大学生、退院というときに身を投げた八十歳の男性・・・こうした人々に向き合い、模索し、たどり着いた取り組みが、たとえば民間病院での透析導入や訪問看護、老健施設やグループホームといった社会の大きな流れ。凄いところは、一人ひとりから出発してそれが社会の仕組みの変革に結びついている。二つ目は、人間の権利、尊厳を根本に据えて、一貫した実践をしてきたこと。自分のものさしではなく、向き合う人のものさしで考えること、身体拘束ゼロに向けての一貫した取り組みは、深い信念に基づくことがよく分かる。一つひとつの看護・介護技術や気遣いを支える思想に圧倒される。

三つ目は、「看護には無限の力がある」という揺るぎない信念と、「自分を囲む時空の中にある命」を預かる看護師という職業への誇りと畏れ。だからこそ、医師をはじめとする他の専門職もチームとして尊重し、多職種アプローチを積極的に進められてきたのだ。」

多くの読者諸氏が、細井氏の実践とその根底にある信念から、看護のみならず人に向き合うことの意味を感じていただければ幸いである。

著者より



Apple Books

参考URL: <https://books.apple.com/jp/book/doodle-your-world-japan/id1504271038>

Doodle Your World -THE JAPAN EDITION

フィリップ フッド
Philip Wood (国際学院初等部教諭) 他著

Doodle Your World, the Japan Edition, was written by myself and Simon Pile, a deputy head teacher from England. The idea behind this book was to inspire children to learn more about Japan and at the same time learn new ICT skills using the iPad. Both Simon and I are Apple Distinguished Educators and are passionate about unlocking children's creativity using the iPad. In the book children find out about different place in Japan, learning some facts and figures about landmarks from Sapporo to Okinawa. Some of the places are famous all over the world, such as the Hiroshima Peace Memorial, while others are not as well known, such as the Glico man in Osaka. We thought it was important to share the well-known while at the same time giving a balanced geographical spread of lesser known places outside of the main tourist areas. After learning about the landmark, students are given a doodle challenge to complete in the accompanying Keynote that we made. These challenges include animating the shinkansen to zoom past Mount Fuji and taking a Geisha selfie. All of the challenges are designed to introduce a feature of Keynote and think about different ways of using this new skill. To support and extend children each task has a link to the Everyone Can Create series of books written by Apple. I thoroughly enjoyed writing the book and gained many useful experiences from this project. Our collaboration was completely online and we were able to communicate easily despite us being more than 10,000km apart. I learnt some new skills and was proud to share some of my knowledge of Japan with people all over the world. I am also very happy that this book has been downloaded by teachers worldwide and has motivated students to learn more about Japan and develop their ICT skills. I hope that the readers of this publication can take some time to download this book and find out how they can use the iPad and technology in more engaging ways.

パンデミック時代の オンライン授業 ——良心学・宗教研究との接点



こはら かつひろ
小原 克博
(大学神学部教授)

コロナと共に始まった二〇二〇年度

どの学校および教師においても、今年度の授業は、新型コロナウイルス感染拡大との関係抜きに語ることはできないだろう。多数の教師が生涯で初めて授業動画を作成することを余儀なくされ、特にITスキルに自信のないものにとつては苦痛と戸惑いに満ちた年度スタートであったに違いない。とはいえ、この予期せぬ外圧により、これまで遅々として進まなかった教育のIT化、オンライン化が一気に進んだことも事実である。この変化を、危機的状況への一時しのぎとしてとらえているなら、危機が過ぎ去った後、すべてが元の木阿弥となる可能性が高い。しかし、コロナ禍の中の共通体験を、次の時代の教育を形づくるための鋳型とできるなら、それは教育のあり方を根本的に見直す貴重なチャンスともなるだろう。私が所属する同志社大学神学部では三月半ばに、コロナ対応は長期的なものになると覚悟を決め、授業のオンライン化への準備を始めた。私が講師を務め、授業のための動画作成やZOOM利用などの講習を行った。そこで、各教員が感じる苦勞の共通ポイントを垣間見た私は、

四月初めに、同じ苦勞をするかもしれない他の教師のために「授業のための動画作成——急場をしのぐためのスィスイ動画作成術」というYouTube動画を制作・公開した。このタイトルからもわかるように、当初は遊び半分の気持ちで始めたのだが、このシンプルな動画がまったく間に全国で何万回と視聴され、数々のコメントが寄せられる中、私が想像していた以上に切羽詰まった教師が多いことに気づかされた。こうした状況に應えるため、この動画はシリーズ化されその八回目の動画では「ポスト・コロナ時代の教育」と題して、私自身の過去二〇年の取り組みをも振り返っている。

「自由教育」の理想を実現するために

私は、オンライン授業を二〇年近く前に始めた。二〇〇一年、大学設置基準が改正され、インターネット授業が正規の授業として認められ、卒業に必要な一四単位のうち六〇単位まで単位認定されることになった。その前年から、この動きを察知していた私は、経済学部の宮崎耕先生、理工学部の芳賀博英先生と共に準備を進め、二〇〇一年四月からインターネット授業を開始した。当時、新聞や

雑誌では「同志社大、全国初のインターネット授業」などと紹介され、一躍、この分野のトップランナーとなったが、学内でのインターネット授業の裾野は広がらないまま二〇年近くが経ち、その間に他大学にどんどん追い抜かれ、今や同志社大学はオンライン授業に関しては、質量ともに周回遅れの感がある。一気に逆転できないにしても、今回のコロナ騒動をきっかけに、同志社らしい新境地を開拓できないだろうか。

ポスト・コロナ時代においては、特定の時間、特定の場所に学習者を拘束するという近代教育の枠組みが解体・流動化する可能性が高い。それを見据えた上で、対面で学ぶことの意義を再確認しつつ、創立一五〇周年を越えて、同志社が目指すべき二一世紀型の教育モデルを考えることは可能ではないか。

新島襄の最重要教育理念の一つは「自由教育」であつた。学ぶことにより、真理を共に知ることにより、因習的に人を縛ってきた諸規範や様々な欲望から自由になって「自治自立」することのできる人間が育つことを新島は求めた。今日のテクノロジーを活用すれば、二一世紀にふさわしい形で「自由教育」の理想を实

現できるかもしれない。そのことは「私たちの学校をもっとも魅力的なものにするためには、ほかの学校に遅れをとらないこと、それどころかさらに先を行くこととが、絶対に必要です」と語った新島の先取の精神にも合致することだろう。

なぜ、私は二〇年にわたりオンライン授業に取り組み、試行錯誤してきたのか。それは私がITオタクだからというだけではない。かつて「富国強兵」という一大スローガンのもとに、各教育機関は国家に有用な人材を大量生産することを求められた。そうした工場型一斉教育は今も続いている。新島がそれに抗つて私学・同志社を設立したことを考えれば、この未完の課題に二一世紀の同志社が果敢に取り組む必然性があるのであり、その末端に私は自分自身を位置づけてきたのである。

学ぶ者を時間的・空間的拘束から解放する「自由教育」はどのように可能となるのか。脱「教室」のプロセスの中で、単にデジタル社会のトレンドに追随するようなことはしたくない。むしろ、我々がすでに取り込まれているデジタルな環境を批判的に対象化し、その外部に立つことができるような自由な精神を養うべ

きだろう。小さいなIT環境へと学生を誘うのではなく、それまで獲得してきた常識がごとく揺らぐ荒々しい場所へと、知の多様性があふれる「知のジャングル」へと導いていきたいのである（山極寿一・小原克博『人類の起源、宗教の誕生』参照）。

私の研究との関係

私の研究についても触れようと思ったが、もはや紙面が残されていない。しかし、これまで述べてきたことには、良心学研究センターで培われてきた研究上の知見が反映されている。「共に知る」を原義とする *conscience*（良心）の現代的意義は計り知れない。また、私の本来の専門である宗教研究は、人類が「今」「ここ」というリアルな制約を超えて、遠くにいる存在（死者を含む）とのバーチャルなつながりを志向してきたことを教えてくれる。前述のすべてがつながっていることを賢明な読者は理解してくれることと思う。

考古学と文化財保護 ー恵まれた同志社大学の環境からー



みずの え かずとも
水ノ江 和同

(大学文学部教授)

私は1982年に同志社大学文学部に入学。1988年に発掘調査を担当する埋蔵文化財専門職員として福岡県教育委員会に就職。その後、2000年から6年間は学芸員として九州国立博物館の開館を経験。2006年には東京の文化庁記念物課埋蔵文化財部門に所属。そして2018年には30年ぶりに考古学の教員として同志社大学に戻ってきました。

日本の考古学・発掘調査事情

日本には約46万8,000ヶ所の遺跡があります。世界的にもつとも遺跡が多い国です。この遺跡の多さは日本の本来の特徴でもあります。全国の地方公共団体に所属する約5,600人の埋蔵文化財専門職員が、遺跡の分布調査を丁寧におこない、一つ一つを丹念に登録しているからこそその遺跡数でもあります。

埋蔵文化財専門職員の人数も世界一。さらに、日本で毎年おこなわれている約8,000件の発掘調査件数も世界一です。発掘調査件数が世界一である理由は、文化財保護法にあります。道路やビルの

建設工事に際して、破壊される遺跡の記録を残すための発掘調査の実施はこの国の法律にも明記されています。しかし、その工事面積に制限がなく、例えば小さな個人住宅1棟を建築する際にも、遺跡があれば必ず発掘調査をおこなう国は日本だけです。

2019年7月、「百舌鳥・古市古墳群」が世界文化遺産に登録されました。2017年に登録された「神宿る島」宗像・沖ノ島」や、2015年に登録された「明治日本の産業革命遺産」を含め、いま日本で世界文化遺産に登録されている資産のほとんどは、意外なことに発掘調査によつてその価値づけの多くがなされています。

考古学・発掘調査といえば遠い過去のこと、現代社会には関係ない分野と思われるがちです。しかし、今の日本では発掘調査は日常茶飯事におこなわれ、私達の日々の生活、都市計画といったまちづくり、そして観光などにも、その発掘調査の成果が積極的に活かされています。私の授業では、考古学の理論や手法に関

することがもちろん中心になりますが、考古学と現代社会の関係性を学生に伝えることも、授業の重要な要素となっています。

同志社大学の文化財保護

同志社大学は6件の国の重要文化財（建造物5件、古文書1件）、2件の国の登録有形文化財（建造物2件）、2件の京都府指定文化財（史跡2件）を学内に有する、全国的にみても指定文化財の件数と種類が極めて多い大学です。なかでも今出川キャンパスは、京都御所・相国寺・冷泉家などに囲まれ、その周辺環境や赤煉瓦建物からなる風景は学生の誇りとなるだけではなく、映画やドラマの舞台、絵画や小説の題材となることで、同志社大学の歴史と文化の源泉、近代京都の一風景ともいえるものになっています。オープンキャンパスに訪れる高校生の多くは、この今出川キャンパスの風景に憧れるそうです。実際に私が関係する授業の学生250人にアンケートしたところ、実にその4割近くが同志社大学を選

んだ理由の一つに、今出川キャンパスの風景を挙げました。

2019年4月、改正文化財保護法が施行され、これからの文化財は保存と活用をバランスよく進めていくことが重要とされました。それだけに恵まれた周辺の歴史的環境を含め、質・量ともに優れた文化財を題材に、新たな同志社大学像をアピールしない手はありません。そしてそれを体系化して学生に伝えることも、私の授業のもう一つの重要な要素です。

恵まれた環境での研究と授業

同志社大学の今出川キャンパスとその周辺には、室町幕府の中核「花の御所」がありました。江戸時代には薩摩藩邸もあり、明治維新を迎える直前の幕末期には歴史的に重要な場所として注目されています。これらの実体も、今出川キャンパス内外の発掘調査の積み重ねによって徐々に明らかになってきました。

同志社大学は考古学と文化財保護という点において、極めて恵まれた環境にあります。したがって、その最新の研究成

果をそのまま授業に活かせるという、他の大学では得がたい個性を持った素晴らしい大学です。私は自分のこれまでの経歴を活かしながら研究を進め、学生が同志社大学で勉強・研究できることに誇りと喜びを感じる授業になるよう、これから積極的に取り組みたいと考えています。



重要文化財 同志社礼拝堂（1886年建設）と
クラーク記念館（1894年建設）（水ノ江撮影）

電池は複雑だからこそ面白い

ど い たかゆき
土井 貴之

(大学理工学部教授)



リチウムイオン電池の伸び代

世界で排出される二酸化炭素のうち約18%を自動車の排気ガスが占めています。21世紀社会の持続的発展に向けて、化石燃料を有効利用して環境問題を解決するために、電気自動車 hopeful 星の星になっています。すでに市販されている電気自動車もありますが、ガソリン自動車並みに長距離を走るためには、駆動用電源である蓄電池の高性能化が必要です。その筆頭候補がリチウムイオン電池です。1991年に商品化されて、昨年2019年にノーベル賞を受賞しましたが、今でも進化し続けており、一方で電池内で起こる反応には未だ分かっていない点が多々あります。これまでに世界中で実に様々な電極材料が探索されてきた結果、負極は黒鉛やシリコン、正極は遷移金属酸化物に決まりつつあります。あとは、これから電極材料の性能を最大限引き出せば、一回の充電で400kmくらい走れる電気自動車を実現できます。その鍵を握るのが電解液です。電解液は、リチウム塩を有機溶媒に溶かしたものであり、その設計要素は、溶媒とリチウム塩の材料選

択およびリチウム塩濃度の3点に限られます。すでに様々な材料や添加剤が検討されており材料開発は飽和に達しつつあります。濃度というファクターに注目して、リチウム塩を飽和に近い濃度まで溶かした濃厚電解液を用いると、電極性能が著しく向上することが約10年前に報告されました。しかし、濃厚化のためにリチウム塩をたくさん使うと材料コストが上昇し、また飽和溶液は粘度が非常に高いため、電池製造時の取り扱いが困難になるという問題が生じます。これらの問題は、濃厚電解液に希釈剤を加えて薄めることにより一挙解決できます。濃厚電解液が持つ特異性を活かしたまま、希釈により実用的な濃度と粘度をもつ電解液に仕上げるという設計コンセプトです。これまでは、リチウム塩を溶かす溶媒を用いることが当たり前であり、逆に溶かさない液体(希釈剤)は見捨てられてきました。希釈剤を新たなプレーヤーとして登場させることにより電解液開発に新たな展開をもたらししています。

二次電池の将来

リチウムイオン電池による火災などの

事故が後を絶ちません。これは電解液に有機溶媒を用いていることが原因であるため、究極的には全て固体でできた電池であれば安全であり、理想的な姿です。

このような電解液の代わりに固体電解質を用いる全固体電池の研究開発が盛んに行われています。しかし、電極も電解質も固体では接合させることが難しいため、リチウムイオンが移動しにくいのが難点であり、市販のリチウムイオン電池のような高い性能が得られません。そこで、固体と固体の僅かな隙間に電解液を入れた擬固体電池の研究開発に取り組んでいます。上述の希釈技術により開発した難燃性の電解液を用いて、極少量に抑えることにより従来のリチウムイオン電池よりも安全性が飛躍的に向上することを期待しています。このような擬固体電池の早期実用化に向けたブレークスルーを提供し、全固体電池への橋渡しを担いたいと考えています。このようにリチウムイオン電池の伸び代を追求しながら、マグネシウム二次電池などの新しい二次電池の研究開発にロマンを追いかけています。リチウムイオン電池をはるかに凌駕する性能を示す二次電池を実現することによ

り、電気自動車の本格的普及のみならず、再生可能エネルギーの効率的利用への道筋を開いていくことが社会の持続的発展に向けて急務です。時に斬新な発想で実験に取り組むこともあります。先人達が積み上げてきた知見や、我々が開発した電解液技術をベースに研究を展開する方が、学生が専門的知識を連続性を持つて学習しやすいため、教育現場での研究に相応しいと思っています。電池は一見ブラックボックスですが、中では様々な化学が絡み合っており、電極材料は無機化学、電解液は有機化学、セパレータは高分子化学、反応は物理化学です。学生には、これまで学んできた化学を全て活かせる技術分野であることを説明して興味を掻き立てています。

ネット授業の功罪

新型コロナウイルスの影響により学生のキャンパス入構が制限されたため、1ヶ月半に渡り研究開発も遅滞しました。奇しくも研究室の実験装置は私一人で使いたい放題になり、研究者心に火が付きましたが、孤軍奮闘して実験に取り組んでも、やはり学生がいないと活気がなく

盛り上がりに欠けました。そこで、5月は割り切つてインターネット授業に注力しました。1回生の必修科目である分析化学は、入学したばかりの学生にとつて色々苦勞があつたと思いますが、例年以上にレポートの出来が良く、また質問内容も高度であり、想定以上に学生の理解が深まっていることに驚きました。どうやら、授業内容をコンパクトにまとめた動画を提供したことで、学生が自身の都合に合わせて繰り返し再生しながら学習できたのが功を奏したようです。これは、今後のネット授業の活用方法について大きなヒントになりました。一方、実験科目は、実施方法について担当の先生方と議論を重ねた上で、実験動画を撮影して学習用資料を作成しましたが、臨場感をもつて伝えることの難しさを痛感しました。これからも、授業はネットを活用して新しいスタイルを見出すことができそうですが、学生生活はネットだけでは不十分です。今後、キャンパスに学生の活気が戻り、学生同士が化学反応を起こしながら切磋琢磨しあえる環境になるよう祈っています。

アスリートのパフォーマンスを 追いかける —メカニズムと実感が生み出す進化—

あら い あや
新井 彩

(大学スポーツ健康科学部助教)



スポーツパフォーマンスを 生み出す動きのしくみへの興味

ヒトの身体が生み出す躍動感に最初に惹きつけられたのは、物心がついた頃に見たアスリートの姿でした。地元の神戸で開催されたユニバーシアードに世界中の学生アスリートが集結し、幸運にも彼らで賑わったいつもの街で非日常を過ごしたことです。自分自身も身体を動かすことが好きで外遊びや様々なスポーツを経験し、中学生以降は本格的にスポーツに取り組みました。そして気づけばスポーツ科学の道へ進んでいました。現在、学生アスリートを目の前にする日常に、自分の興味のはじまりとの繋がりを感じます。

専門領域は、トレーニング科学、スポーツバイオメカニクスです。専門的に長く携わってきたのが陸上競技であることから、より速く走りたい、高く・遠くに跳びたい、ということに基本的な興味関心があります。競技の現場的な動作やトレーニング、その基礎となるヒトの筋力発揮や制御、筋や腱のメカニクス等に注目して研究しています。

本質をつかんでトレーニングをするために

トレーニング方法は多種多様に存在しますが、本質的に何をどのようにトレーニングするのか、ということを抑えなければなりません。そのために、メカニズムを明らかにすることは重要です。例えば、高くジャンプをしようとする、身体がバネのように振る舞います。大きな力を出すには筋肉を肥大させることや最大筋力を高めることを目指したトレーニングを行います。筋力が高くとも強いバネのようなパワーが発揮できるとは限りません。筋は、腱というバネを持っており、それを介して骨に付着しています。このバネとなる要素の特性をいかに引き出すことができる筋であるのか、アキレス腱のバネを活かすのは、主にふくらはぎの筋肉（腓腹筋、ヒラメ筋など）の機能次第となるわけです。どのようなタイミング、レベルで筋肉が活動しているのか、より高くジャンプできる人とそうでない人に違いがあるのか、あるいは、皆同じように活動するものなのかなど、そのメカニズムを追究していき、機能的にトレーニングするヒントを探ります。このような基礎的な研究に取り組むことか

ら得られた知見に基づいたアイディアは、本質を捉えたトレーニングを可能にし、その法則からトレーニングは創造されるものと考えています。

理論×実践から実感を得て 身体で知恵を生む

現在、同志社大学スポーツ健康科学部で「トレーニング論」の講義を担当しています。具体的なトレーニングメニューに通ずる方法論や、身体へ与えられるトレーニング刺激の種類やそれに対する適応など、トレーニング計画の立案をして多種多様なトレーニング課題の分析、評価、創意工夫をすることができるよう、原理・原則、メカニズムを学んでいきます。講義の中で実際のトレーニングをすることはできないため、学生が自分たちで実践し、実感として理論を理解し、そこからトレーニングを工夫していただける恵を生み出せるようなアプローチを心がけています。講義で学んだことを、トレーニング中に実感として理解した、という学生の声を聞くと嬉しくなります。

競技現場でのコーチングから研究を深める

スポーツの実践現場で起こっているこ

とを観察しその改善に直接取り組むことももちろん大切です。私は競技の現場に出ることをライフワークとしており、学生、社会人アスリートの指導や、子どもたちへの陸上教室を展開するなどの活動を続けてきました。現在は、同志社大学陸上競技部のコーチとして日々学生選手のパフォーマンス向上を目指して共に活動しています。クラブの活動は課外活動という位置づけですが、私たちの研究領域にとつては、まさにこの場が常に最前線なのです。例えば、トップアスリートの動作を分析し、特徴が明らかになつても、そのデータはあくまでも長期的にトレーニングを積み上げ磨きあげた結果として発揮されたパフォーマンスを分析したものです。科学的データの理解はトレーニングの方向性を見出す重要な情報源であり道しるべとなるものですが、皆が直接そのデータに向かつて最短距離を進むことが正解を導くとは限りません。では、トレーニング現場での試行錯誤のポイントはどこにあるのでしょうか。

コーチの目から見た選手の動作や選手自身が認識した動きは、力が発揮された結果起こったものであり、その力は筋肉がエンジンとなり最適な出力をしたこ

とで生み出され、その筋肉の活動は、脳からの指令で調節されています。トレーニングは、結果を変化させるためにアプローチをしています。本質的には原因へのアプローチです。発揮された力の向きにズレがあるのか、それ以前の筋活動レベルが低いのか、適切なタイミングで筋が活動できていないのかなど、どの原因が鍵となるかを探っていきます。これらを見極める目を持つことと研究によりメカニズムを明らかにしていくことは、密接な関係にあります。

選手やコーチの「気づき」が研究アイディアのひとつになります。そして、エビデンスに基づいたトレーニングを行つていても、アスリートは次から次へと新たな境地へ進化していきます。研究と教育、スポーツ活動の現場を分け過ぎず、同じフィールドで常に行き来しながらアスリートのパフォーマンスを追いかけていくことで、スポーツ（実践、科学）を魅力的に学んでいく場面を学生アスリートたちと共有し続けていきたいと思っています。

ピアノ演奏を左右する 人の身体、その使い方



なかの けいり
中野 慶理

(女子大学学芸学部教授)

いかに自由に演奏するか

私の専門はピアノ演奏なので、現在に至るまで、より説得力のある演奏を求め続けてきました。もちろん、より良き演奏を目指すには、作曲者の書き残した楽譜を深く読み込んで、作曲者の求めているものを正しく理解する学術的研究が不可欠であることは言うまでもありません。そして、作曲者の意図を酌んだ演奏を繰り広げるために必要になるのが、「如何に自らの身体を効率良く、自由に使うか」という考え方に基づく研究、と考えています。自分の身体を自由に使えることで、様々な表現が可能となり、ピアノという楽器を自由に操作し、作曲者の意図に沿った演奏を実現することが可能となります。この理想を求めて、大学での専門実技、副科ピアノでの指導に臨んでおります。

効率の良い体の使い方を求める プロセスこそ重要

体を使って楽器を操る、という行為は、ある意味、アスリートと同じ機能を求め

られます。素早い鍵盤上の跳躍、無駄のないパワーの使い方から生まれる強弱や音色の様々な変化を可能にするため、どのように体を使つていくかを研究し、自分の体に合った正しいマニュアルを持つことが必要なのです。

学生の皆さんはおしなべて、私よりはるかに優れた運動神経を持っています。私より手のサイズの大きな学生も珍しくありません。ただ、効率の良い、楽曲を表現するのに効果的な身体の使い方が出来ているかというと、正直、かなり疑問符が付きます。そこで、学生さんお一人お一人の体格や指、手の特徴、さらに気性も観察し、私自身の過去の経験とも照らし合わせながら、今演奏している曲についてお一人お一人に合った奏法を学生さんと一緒に探求していきます。常に新しい観点を見出して、様々な奏法を実験し、検証・分析することで、最善の奏法を根気よく見出していくことの積み重ねを現在まで続けています。

時に試行錯誤を伴い、時間もかかりますが、最善の奏法を見出していくプロセスこそ重要と考えています。「なぜその

奏法なのか」を検証しての最善の奏法の確立なので、必然性を実感出来ます。教えることにおいて、学生への配慮は、「重要と思われることを繰り返して指導しつつ、学生自身が理解し進歩するのを期待し、気を長くして待つ」と考えています。

演奏に関しての全体的な傾向、それを克服するための身体の姿勢

多くの学生さんに見られるのが、演奏時に力んでしまう現象です。これは、自分の感じたことをストレートに表現することへの迷いや恥じらいも原因している場合があります。そこで、私のクラスでは、まず感じたありのままを出させる、演奏に関しての精神的な抑圧を取り払うことに全力を挙げています。そこが、自分の身体を自由に使う第一歩となります。その上で楽譜の読み込みを徹底して行いつつ、学生さん自身が曲を通じて得られるイメージを膨らませ、それを実現するための呼吸、指の形、腕の使い方などを探していきます。

呼吸の仕方、指の形、手の使い方と共に重要なのが、無駄な力みを取る、「脱

力」です。

脱力の基本は、弾きやすい身体の姿勢を会得することから出発します。重要なことですが、私達は自分の演奏の良し悪しを、自らの聴覚で判断します。即ち「弾きやすい姿勢」は、「自分の音を聴きやすい姿勢」でなければならぬのです。このことは、自分がどのようなテンポで、どのような気分で弾いているかを正しく判断出来る姿勢を見つけることが必要、という結論にも繋がると考えます。音楽は時間の中で動く芸術だからです。

しかし学生さん達だけでなく私達でさえもしばしば、「弾くこと」に必死となり、自分がどんな音楽を奏でているかに神経がいかなくなります。この時、頭蓋骨は胴体に対して不自然に前に突き出し、鍵盤ばかりを覗き込み、首の後ろに大変な力が入ります。この状態を避け、「頭蓋骨は、肋骨の真上、それは私達が考えるよりもわずかに後ろに保つ」が基本です。私達は椅子に腰掛けてピアノを弾きますが、座るときのお尻の重心の位置も、自分が考えるよりもほんの少し後ろに保ちます。この姿勢で、もし座る位置がピ

アノから遠いと感じたら、腕が突つ張らず、詰まらずちようどよい位置に、自分の体を椅子ごと持つてきます。そこがその人のベストの位置と考えられます。そして、顔をピアノに向けてまつすぐに保ちます。これで、ピアノの鍵盤の向こう側、ピアノという楽器から弦が振動して発生する音が聴ける態勢になります。ピアノの音は鍵盤から出てくるのではなく、鍵盤の向こう側、譜面台の向こう側から出てくる、その音を聴いて音楽を創造するために鍵盤を打鍵するのです。

これが、脱力の出来る、弾きやすく聴きやすい身体の姿勢だと考えています。

演奏の理想を求めて

脱力の結果、得られる最大の果実は、様々な種類の、美しく伸びのある、歌う音が出せることです。それが、音の魅力で綴られる「音楽」という芸術を創っていくことに繋がります。

高い理想を持つて、学生さん達と共にこれからも精進していきたいと考えています。

「WWL (ワールド・ワイド・ワーニング) コンソーシアム」で目指すもの ～「SGH (スーパー・グローバル・ハイスクール)」の その後の展開



ちょう さ か おり
帖 佐 香 織

(国際中高社会科教諭)

本校は、2020年、文部科学省よりWWL事業拠点校の指定を受けました。2014年より5年間指定を受けたSGHでは、「環境先進国に学び、世界に提言」というテーマを設定し、グローバルな社会課題である環境問題に対して主にヨーロッパの環境政策について学び、学んだことから発想した政策案を京田辺市や京都市などの自治体や国際機関に提言することを試みました。SGHプログラムでの学習により、本校の生徒たちは環境や世界の社会課題への関心をより強く持つようになり、課題解決に向けての協働の経験を得て成長していったことは非常に重要な成果でした。2020年7月、レジ袋有料化の実施にあたり選ばれた「環境省プラごみゼロアンバサダー」の3人の内の1人に、本校のSGHプログラムの3年間受講した生徒が選出されています。

このプログラムにおける、特にヨーロッパ・フィールドワークでの経験から、優れた環境政策は、都市計画や街のあり方、そしてそれを支える教育や成熟した民主主義と大いに関係があることに気がつきました。また、実践してきた新しい

教育プログラムをより発展させたいとの思いもありました。そこで、より多様な生徒やステイクホルダーの方々と連携し、課題解決を目指すことのできるグローバルな人材育成を目指す「WWLコンソーシアム」を構築し、「持続可能な都市の構築」をテーマとするプログラムを実施していくことになったのです。

本校は事業拠点校として、同志社法人内各高等学校をはじめとし、ノートルダム女学院高等学校、京都聖母学院高等学校、洛星高等学校(京都府)、武蔵野大学附属高等学校(東京都)、海外日本人学校であるストックホルム補習授業校とプリンストン日本語学校、The Nueva School などアメリカ、ドイツ、フランスの現地校とのコンソーシアム運営を行っています。総合大学である同志社大学とも連携しながら、連携校共通の教材で学ぶ機会を持つたり、同志社大学EUKキャンパスなどを含むフィールドワークの連携校の共同実施を考えています(資料1)。

今年度は、高校1年生必修科目として設置した Sustainable Society Study (SSS)、2年生、3年生の選択科目として設置した Sustainable Society Research (SSR)、

Sustainable Society Design(SSD)を開講し、合計7名の担当教員が、意見を出し合い、より良い授業を行えるように日々ディスカッションをしています。授業も1学期の一部はオンライン実施で、試行錯誤の毎日ですが、情報科教員やITに強い教員、理系・文系様々な知識や発想にもとづき自由に意見を出す教員、アメリカ国籍で日本・アメリカで教育を受けた教員、SGHの経験をもつ教員などそれぞれが力を発揮することで、チーム・ティーチングの良さがより発揮された授業になっていると思います(資料2)。

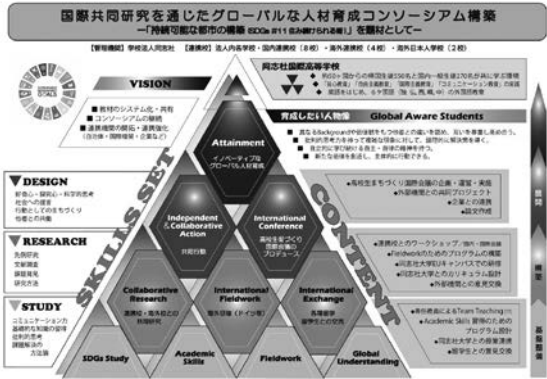
生徒たちのITスキルにも差がありますが、幸い、2020年6月現在では生徒たちは登校し、対面授業が始まっているので、オフライン、オンラインの良いところを生かしながら課題を進められるコミュニケーションスキルを身につけてくればと考えています。

まだ始まったばかりで成果など未知数の部分がありますが、まずは教員の側が新しい挑戦と出会いを楽しみながらプログラムを構築していきます。

(資料1)

文部科学省提出の構想概念図。現在W
指定校は全国で22校。

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/2020/mext_00177.html



(資料2)

高校1年生必修科目SSSは、約270人が受講します。グローバル化やSDGs、街づくりに関する基礎知識とともに、レポートを書いたり、リサーチやプレゼンテーションを行う基礎的なスキルを身につけることを目指しています。1学期は左表のような流れで授業を実施しました。

5月15日	イントロダクション(6人の担当教師によるオリエンテーション、ディスカッション動画配信。) 「住みたい街づくり」に関するアンケート (google formで提出。)	オンライン
5月22日	グローバル化の定義(動画配信、課題はpdfで配信し、提出はgoogle formで。)	オンライン
5月29日	「住みたい街」についてのリサーチ(「住みたい街づくり」アンケートの結果公表、課題はpdfで配信、グループでスライドの担当範囲を作成。)	オンライン
6月5日	「住みたい街」リサーチの続き、グループでの役割分担 (google classroomのチャットで報告をする。)	オンライン
6月27日	「住みたい街」スライドを共同編集し、中間報告を提出、各自がリサーチにより集めた資料の提出(google driveに提出。)	オンライン
7月6日	グローバル化の定義のまとめ(6人の担当教師によるインタビュー動画配信。)	オンライン
7月13日	「住みたい街」リサーチのフィードバックと完成版提出 (google classroomに提出)	オンライン
7月20日	「住みたい街(フライブルク、ストックホルム)」に住む二人の講師による遠隔講義(動画配信)	オンライン

同志社 クローズ・ アップ

同志社大学・ダイキン工業との包括的連携協力

同志社「ダイキン」次の環境」研究センターセンター長理工学部教授

後藤琢也 ごとうたくや

2020年3月25日、学校法人同志社同志社大学（以下、同志社）とダイキン工業株式会社（以下、ダイキン）は包括的連携協力に関する協定書を締結しました。

同志社とダイキンは、以前から共同研究を実施するなど関係を深めてきており、2016年12月には教育・研究に関する協定書、覚書を締結し、大学院生の研究指導（連携大学院）を進めてきました。2019年度には、更なる連携強化に向けて、単発的な共同研究や研究指導のみならず、「組織」対「組織」の連携による包括的な連携事業を開始することを合意し、1年間の協議を経て、包括連携協定の締結に至りました。

本連携では、地球環境問題解決に資する技術的、科学的な共同研究を実施することが柱となりますが、個々の共同研究の枠を超えて、科学技術だけでは解決することができない「次の環境」のビジョン・新事業を企業と協創し、幅広くビジネス展開できる人物・人材の育成にも取り組みます。同志社は、その実施母体として、2020年4月に「同志社―ダイキン「次の環境」研究センター」を立ち上げました。世界トップの空調機

メーカーであるダイキンが同志社に期待する連携事業は、従来の産学連携の枠を超えた社会的意義を有するものです。

本連携事業のテーマである地球環境問題は、現代社会の喫緊の課題であり、共同研究では、この問題の一つである「CO₂の削減」をさらに一歩進め、CO₂を分解・再利用する新技術の開発に取り組みます。この技術が確立されれば、地球温暖化防止の解決策になるだけでなく、人が吐き出したCO₂を原料として循環的な酸素供給を可能とすることで、国際宇宙ステーションなどの完全な閉鎖空間での長期滞在、将来的には月面基地や惑星居住などの宇宙開発にも貢献することができそうです。さらに、CO₂再利用技術では、CO₂を原料として、種々の化学物質の製造将来的には、炭素エネルギー循環社会の構築に結び付くような技術開発を行います。

また、国際エネルギー機関（IEA）によれば、世界の空調機需要は2050年までに現在の3倍に増加する見通しと発表しています。このため、今後予想される空調機の急増が必要となる電力量は、米国、欧州連合（EU）と日本の現在の発電能

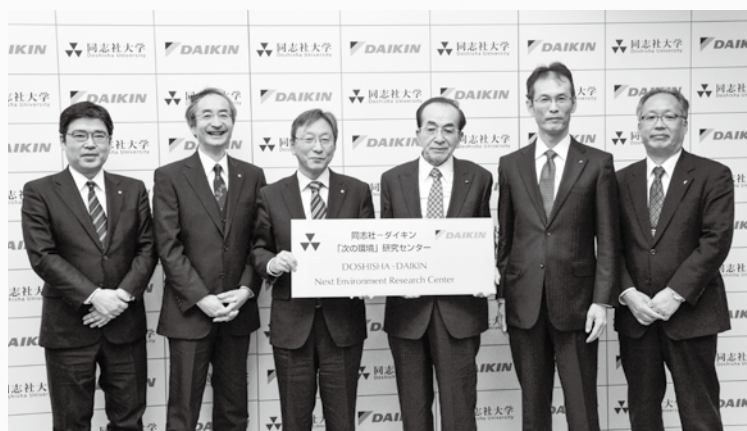
力の合計とはば同じとなります。エネルギー効率が高く、環境に優しい様々な機能を有する空調機の実現は、地球環境問題の解決に向けた最優先事項の一つです。

空調機をテーマとした共同研究では、まずはインバータ、熱交換器、圧縮機にフォーカスし、空調のエネルギーロスをなくす極限追求を目指します。インバータに関しては、インバータ・モータトータル損失最小のための最適パラメータ設計技術の開発をテーマに、圧縮機・モータの高速化、高周波化、高密度化に伴う根本的な電磁損失をモータ制御と組み合わせる最小化する技術の研究開発を行います。圧縮機に関しては、圧縮機摺動損失の低減技術をテーマに、圧縮機の小型化に必要な高速運転を支える低摺動損失の軸受技術の損失説明と最適設計を行います。熱交換器に関しては、高強度・高耐食性熱交材料の探索をテーマに、伝熱管材料に発生する腐食形態の分析・モデル化により、薄肉で高耐食性のある材料の探索と利用検討を行います。これら共同研究については今後の進展を見ながら、さらなる技術深化、加えて新たな共同研究テーマの創出も行っていきたいと考えています。

教育・人材育成プログラムについては、従来の科学技術の観点のみの環境対策の行き詰まりを打開する「次の環境」を提案・実現できる人物・人材を育成することを目指します。本学の自然科学と人文・社会科学の融合を目指す教育理念のもと、米国で開発されたデザイン思考を基礎とするフューチャーデザイン・ワークショップを開催し、「次の環境」を方向付ける将来世代の視点に立ったビジョン、技術アイデアを数多く生み出し

ます。志の高い学生は、企業研究者と一緒に進めるミッション研究にステップアップし、共同研究提案、ベンチャー起業へと発展することも可能です。

同志社とダイキンの本連携事業は、2020年4月から10年間という長いものです。2025年には創立150周年を迎える本学で、創立者新島襄の遺志を受け継ぎ、この連携から同志社の礎となる新しい取り組みが生み出せるよう活動していきます。



同志社 クローズ・アップ

Computer Science without a computer

コンピュータを使わずに情報科学を学ぶ
教室をぬけだして、MSの展示をきっかけに

中学校・高等学校教諭

外のむらたも
外村拓也

はじめに

コンピュータサイエンスは21世紀の基本的教養と言われている。プログラミングはその入口と位置付けられている。プログラミングについて学ぼうとすると、当たり前だがPCがあつた方がよい。もう少し欲を言うならば、家電でもロボットでも良いから、電子機器上でプログラミングを行えるものがあつたら尚良い。家庭での電子機器の普及や低年齢からのプログラミング教育熱も相まって、ほとんどの子どもたちもなんとなく使っている。私たち(大人)も、コンピュータや電子機器が身近にはあるが、コンピュータの基本的な仕組みを知っている人は多くはない。なんとなく使っていて、なんとなくどんなことができるか漠然とわかつている程度である。

子どもにプログラミングについて話すと、「パソコン嫌いなんだよね」「PCがない世界に行きたいわ」など、既に苦手意識を持っている子どもが一定数いる。特にマウスやキーボードに関して、小学生レベルでの習熟度に大きな差があり、習熟度が低い子にとってはそれがプログラミング教育を受けるハードルにもなり、プログラミングを楽しめずに、むしろ嫌になる要因ともなっているのではないだろうか。そもそも電子機器上でプログラミングを行うことは、コンピュータサイエンスの入口として必須ではない。情報強者と情報弱者、工業国と開発途上地域との隔たりを横断するようなものをヒントに、電子機

器を使わずにコンピュータサイエンスの基本を遊びながら体験できるカリキュラムを今回実践した。

「MS(メディアスペース)」から「コンピュータの森」へ

「ルビイのぼうけん」コンピュータの国のルビイ」という有名なプログラミングの絵本では、コンピュータの世界にルビイが迷い込むところから始まる。校内のけやき広場に「コンピュータの森(世界)」をつくって、今回はそこで各種アクティビティを行うことにした。コンピュータの森へ移動する際に、技術科のMS(メディアスペース)を通るのだが、そこには様々な歴代のPC・ゲーム機が展示されている。【ゲーム機】ファミリコン(1983年)ゲームギア(1990年)など【PC】PC-8001、PC-9801、iMacなどが展示されている。

展示品を紹介していると、ちよつと詳しい子が「このゲームのCPUは64ビットだ」と気づき、なんとなくコンピュータのキーワードに「bit」があることがわかつてくる。ここでは「bit」の詳しい話は割愛するが、コンピュータの内部で計算を受け持つ半導体の演算装置(CPU)が電気のONとOFFによってデータを記憶し、それをまた電氣的に操作することで計算を行っている。前述の絵本を使いながら



MSの展示の様子



アス木ー

説明すると、コンピュータはONとOFFしか理解できないことが子どもたちにも何となくわかっていく。数字だけでなく言葉や画像や音楽も、コンピュータの内部ではONとOFFという2進数、つまりビットに変換されていく。

「情報」はビットからできていて、「情報はコンピュータの森」へと生徒を誘うと、そこにはアス木ー(笑)(ASCII)があり、少し解説すると、子どもたちの中で「おお、数字や文字とかは0、1で表せるわ!」「数学で習ったけど、2進法ってここで使われているのか!」と驚いていた。

ビットときたか? ビットとくるアクティビティ

子どもの中で「ちよつと待てよ、私たちは音楽も聞くし写メも送る。文字と数字だけのやり取りをしていないぞ」と疑問がわいてくる。

たとえば、デジカメ。いわば小さなレンズ付きコンピュータだが、撮影した画像はONとOFF、あるいは0と1のビットからなるデータに翻訳されて記憶される。そのデータがパソコンに転送され、ディスプレイに映るのは、膨大な数のビットからなるデータを画像へとパソコンが翻訳・変換している。スマホなどに格納された大好きな曲もまた、内部では膨大な数のビットの集合体になっている。つまり、0か1かの集まりとなっている。だからこそ、インターネットを使って、私たちは画像や音楽や文書を送ったり受け取ったりすることができる。

ここで、ちよつとしたワークを試してみた。右側にビットのデータがあり、左にその数字を読み取り翻訳・変換していく。生徒たちがパソコンになりきるわけである。「な



ビットからなるデータを画像へとパソコン(生徒)が翻訳・変換している様子



お題を出して2進数の確認

んだ、これ?」「できた!」「やった!」と一生懸命に数字を画像に変換をし、変換の速さを「スベック(性能)が高い!」とか言いながら、互いに競争をしていた。どんなものでも0か1かのビットの集まりに翻訳できることがわかったので、最後にインターネットを利用したデータのやりとりについて、体を使った活動をして授業を終了した。伝言ゲームのようなもので、データを送る側と受け取る側に分かれて、データ(数字)を完成させる。

まとめ

ただ使っている、与えられている側で、これからの未来を切り拓いていくのか。今やコンピュータは身の回りに溢れかえっている。今後ますます子どもたちの実社会(未来)とリンクしてくるだろう。しかし、普段何気なく使っているスマホやPCなどがどのように動いているのか、ほぼ完全な「ブラック・ボックス」となっている。その仕組みをちゃんと理解して使っている人は、実は、情報のプロの中にもほとんどいない。(仕組をちゃんと理解するには、大学の情報系の学部でも2年とはかかると言われている、数時間の講義ではまったく不可能なことだが)本校のプログラミングの授業では、もちろんPCを使っているが、アプリやサイトで学習したり、アニメーションやロボットを制御したりもしている。今回の実践は電子機器を使わずに、コンピュータサイエンスの入口、基本を遊びながら体験できるカリキュラムである。PCでのプログラミング学習も重要だが、このようなアクティビティを織りまぜたものも、子どもたちの学習へのエンゲージを高める1つになるのではないだろうか。ビットときてこれからの未来を生き抜く生徒になつてくればと思う。コンピュータを使って何をやるか?(社会を幸せにする?他人を幸せにする?)が重要であると思う。

参考ウェブサイト: Computer Science without a computer (最終閲覧日: 2020年7月2日)
<https://www.csunplugged.org/en/>



データのやりとりを体で再現

同志社 クローズ・ アップ

二月卒業式

香里中学校・高等学校教諭

奥村 賀寛 おくむら よしひろ
畑中 亜希子 はたなか あきこ

はじめに

ここに記すのは、2019年度の本校高校3年生が去る2月にとてもすてきな卒業の仕方をしたという話である。とはいえ、読者の皆様には読後に「何も特別な話ではない」と拍子抜けされること必至である。それを承知で紙面を拝借するのは、本校が長年に渡って卒業前の生徒指導に苦慮してきたからだ。同志社香里高校の卒業にまつわる悪しき伝統を知られることになるが、このテーマで書く以上、覚悟して恥をさらすしかない。

悪しき伝統

高校3年生は12月までの成績をもって大学の推薦試験に臨むのだが、合格通知を受け取るやいなや、たがが外れたように自由を謳歌し始める。

卒業式が3月に行われていた2018年度までは、1月末から2月中旬までの約3週間、大学での学びに向けた特別授業を実施していた。特別授業は教員にとってやりがいがあり、間違いなく一部の向学心旺盛



な生徒には好評だった。しかし、卒業した先輩から高3へ、大学に合格したあとには真面目に登校しなくてよいという風潮が脈々と受け継がれていて、1時間目の出席率は目も当てられず、無断欠席も日常茶飯事。頭髪を染め、ピアスを開け、服装規定に違反することも恐れない。挙句の果てには学校を休んで旅行にでかける者もいて、担任が自宅に電話をしても梨の礫。みんな、その程度では大学推薦を取り消されないと知っているのである。

またともに登校してこない生徒のために授業を準備し、家庭連絡を続け、説教を垂れる徒労感。高3の風紀の乱れが下級生に与える悪影響。毎年、苦虫を噛み潰すような気持ちで3週間の特別授業を終えると、約2週間の冷却期間があり（この間に高3はさらに羽を伸ばし）、3月に入るとただの通過儀礼としての卒業式が執り行われる。早く卒業させた方が互いのためではないかという声は、ずいぶん前からあった。そしてついに昨年、教員会議で卒業式を約2週間早めて2月に高校3年生を送り出すことが決定された。



高3担任の決意

2019年度の高3担任は、高3の正しい3学期の形を示すことが使命だと感じていた。卒業式の時期が早まったからと言って、さつさと生徒を追い出すのではなく、ともに過ごす最後の時間を価値あるものになりたい。卒業に向けた同志社香里生の姿勢を変えられるのは、式の日程がずれた今年しかない。

本校の生徒は元来学校が大好きなのに、卒業直前に学校から足が遠のくのはなぜなのか。それは特別授業の時間割では、人によって登校する時間や日数がバラバラで生活リズムが乱れやすいこと、進学する学部学科ごとに分かれて受ける授業には本来の学校の楽しさが見いだしにくいことが理由だと考えた。

では、どうすれば前向きな学校生活を送るようになるのか。全員が毎日1時間目から登校し、ホームルームのメンバーで通常授業を受け、礼拝にも出席し、終礼を実施して担任との繋がりを保てば、安定した学校生活を送るのではないか。遊ぶ時間が少なければ、身だしなみの乱れも生まれにくいのではないか。

抜本的な改革は前例となつて来年以降の高3担当者に迷惑をかけるかもしれないという不安はあったが、生徒が最後に「高校楽しかった」「卒業するのが寂しい」と思ってくれることを願い、我々は卒業式予行の前日まで普通の日々を送らせることに決めた。

キミたちが学校を変えて

12月の学年集会で3学期のスケジュールを伝えると、案の定ものすごいブーイングが起きた。我々教員の思いを話し、君たち次第で同志社香里の未来が決まると論し、鼓舞した。



楽しかった高校生活

ほどなくして、生徒たちは「卒業祭」なるものを開催したいと声を挙げ、実行委員会を立ち上げた。清く正しい学校生活を送ることを条件にその「卒業祭（＝学年文化祭）」を許可すると、その日から各クラスの実行委員が「遅刻をせざるにちゃんと学校に来よう。最後に先生たちを裏切つたらあかん。気持ちよく卒業式を迎えよう。」と互いに呼び掛けるようになった。

そして卒業までの2ヶ月はどのような様子だったかと言えば、遅刻は2学期までに比べれば少し増えたが、許容範囲に収まった。身だしなみの乱れは一切なかった。授業態度は非常に誠実で、「高校の授業を受けるのは残りわずかだ」という気持ち伝わってきた。卒業祭に向けては、クラスで合唱、劇、ミュージカルなどの出し物を決め、放課後に残つてまで練習をしていた。休みの日に練習したクラスもあった。

すべてを生徒の手で創りあげた卒業祭は5時間に渡つて開催され、どのクラスの出し物も創造力豊かで練習を重ねた成果が出ていた。クラスメイトとの連帯感、母校に対する愛情、最高学年としての矜持に溢れる感動的な催しであった。

おわりに

これが同志社香里が高校の卒業式を2月に変えた顛末である。巣立ちを目前にした生徒たちがクラスメイトとの繋がりをより深め、成績に縛られない学びの面白さに気づき、自主性を尊重する同志社教育のよさを改めて感じてくれたいたらうれし。



同志社 クローズ・アップ

「同志社とキリスト教探究」

女子中学校・高等学校教頭

平松 譲二
ひらまつ じょうじ

「同志社とキリスト教探究」は、二〇一三年度のカリキュラム改正に伴い新たにスタートした高校三年生の聖書科選択科目である。これまで本校には聖書科の高三選択授業はなかったが、この度初めて総合学習の一環としてこの選択授業が設定された。この授業を選択履修する生徒は、毎年約三〇〜四〇名である。今回はその授業内容の一端を紹介させていただく。同志社女子中高で学ぶ最終年度に、生徒たちは「自分探しの旅」キリスト教教育があなたに求めること」を主題に学んでいる。不思議な導きによって同志社女子中高で学んできた生徒たちが、神から与えられた使命と同志社建学の精神について探究することを目指すにしている。

この授業はいわゆる講義形式の授業ではなく、生徒たちが学期ごとに設定されたテーマに基づいて各自が自由にテーマを設定し、主体的に調べ、学習成果を発表する機会を設けている。調べ学習は基本的に本校の図書・情報センターを利用して、司書教諭による専門的サポート体制のもとより深い主体的学びを支援していただいている。以下に各学期のテーマと取り組みの概要を説明したい。

【二期】「新島襄または同志社の歴史」

一学期は「新島襄または同志社の歴史」に関する論文を作成し、新島襄生誕記念懸賞論文（学校法人同志社主催）に優秀作

品を応募している。生徒たちが選ぶ論文テーマは、とても幅広い分野におよんでいることに驚かされることが多い。三年ないし六年間にわたる同志社女子中高での学びは、毎朝の礼拝から始まる。そのなかで、生徒たちは日常的に新島襄や同志社に関する話を聞いている。そのため、各自の興味ある分野や将来進みたいと考えている進路に関連した多様なテーマを選ぶのである。過去四年の本校生徒入選作品のタイトルを紹介する。

◇最優秀賞

「源流から大海へ」脱国の出来事から考える『自由』の定義」（二〇一六年度）

「韓国女子教育の母 淵澤能恵」（二〇一七年度）

「医師にならず牧師になった大久保真次郎」（二〇一八年度）

◇優秀賞

「八重から学ぶ『宗竹』（二〇一六年度）

「新島襄と山本覚馬の遺志を受け継いだ中村栄助」

（二〇一九年度）

「中村栄助―新島襄と同志社に尽くした男―」（二〇一九年度）



◇佳作

「ホノム聖人 曾我部四郎 くハワイで地の塩 世の光となつた牧師」(二〇一六年度)

「同志社女学校とミス・デントン ミス・デントンからの贈り物」(二〇一六年度)

「新島襄の視点で読み解く現在のアメリカ」(二〇一七年度)

「東華学校 く消え去つた『もうひとつの同志社』」(二〇一九年度)

「周再賜が目指した社会」(二〇一九年度)

以上の論文テーマは新島襄に関するものではなく、その分野は様々で、女子教育、福祉、平和、医療、教育、国際、茶道など多様である。そして、同志社に関わる人々の中に自分自身の興味や疑問を重ね合わせ、今同志社で学んでいることの意義を見出していくのである。

〔二学期〕「現代社会が抱える諸問題と『聖書』が現代に語るメッセージ」

いつの時代にも人間は多くの問題や課題を抱えているが、「聖書」も当時の社会問題が語られ、その人間模様の中に神がどのように働きかけ、イエス・キリストがどのように向き合つたかということが記されている。遠い昔に書かれた「聖書」であるが、現代を生きる私たちにも語りかける書物であると、生徒たちに理解してもらうことが大切であると考え、そこで二学期は、各自が選んだ現代社会的諸問題と聖書が語るメッセージについて口頭発表とスライドを用いたプレゼンテーションを行う。



生徒たちは、各自が選んだ諸問題と向き合い、聖書が語るメッセージを読み解き、その解決策を考察して発表する。これまでに生徒たちが選んだ社会問題と聖書のメッセージの一例を以下に紹介する。

「世界の難民」(約束の地を追われたイスラエル人と神の存在から教えられること)

「現代のいじめ」(聖書の時代に罪びととして扱われた人々とイエスの救い)

「被差別部落」(『善いサマリヤ人』から、サマリヤで生まれた人々の苦しみを考える)

「女性差別」(聖書の時代の女性たちに向けられたイエスの視点から学ぶ)

「障がい者差別」(イエスの奇跡物語からイエスの障がい者への視点)

生徒たちは現在社会が抱える諸問題と聖書の時代をつなげて捉え、私たちが生きる上で必要な視点を、聖書から読み解くことを学んでいる。

〔三学期〕「聖書が語るメッセージを語る」

三学期は、生徒がこれまで出会つた聖書の言葉(聖句)の中から一番大切にしたい聖句を選び、その聖句が自分に語り掛ける意味を一人一人が考察する。中高時代に出会う聖句は一生の宝物である。同志社女子中高では毎日礼拝があり、聖書を読まない日は一日もない。生徒たちにとって、何気なく読んだり聞いている聖句のなかに、必ず心の奥に響く言葉と出会うものがある。その言葉が心に響く意味が何なのか考え、なぜ自分はこの聖句を一番大切にしたいと考えたのかを考察する。そして、卒業を前にしてこの聖書の言葉にまつる思いを、新校舎希望館の黎明チャペルで一人ずつ語っている。そのシーンは感動的な時間である。



このようにして、「同志社とキリスト教探究」を履修した生徒たちは、同志社女子中高で学んだことの意味を振り返りつつ学び、神から与えられた個々の使命や役割を確認して本校を巣立ち、同志社人としてこの社会での歩みを始めるのである。

明治維新の三傑と同志社

—西郷、大久保、木戸と新島襄—

もと い やす ひろ
本井 康博 (元大学神学部教授)

薩長同盟

本学今出川校地は、旧薩摩藩邸（二本松邸）に始まる。それだけに薩長同盟（一八六六年）締結の有力候補地と目された。もちろん異説もある。

最近、論争は決着し、小松帯刀^{たけわき}の寓居先、近衛家別邸（通称「御花畑」、上京区室町鞍馬口）に落ち着いた。

では、二本松邸は無関係か。いや、下交渉はこちらである。薩長同盟は二本松



新設された薩長同盟締結記念碑
地下鉄「鞍馬口」西。筆者撮影(2019年11月3日)

邸で始まり、小松邸で仕上がったのである。今出川校地が、新日本グランドデザインのため坂本龍馬、大久保利通、西郷隆盛、木戸孝允らが知恵を絞った歴史的現場であることに間違いない。

西郷隆盛と山本覚馬

薩摩の要人に最初に接触した同志社人は、薩摩藩邸を同志社校地に転化した山本覚馬である。戊辰戦争で薩長に敵対した会津藩士が、捕獲、幽囚された因縁の

この藩邸をなぜに入手できたのか。

維新以後、京都府顧問（知事補佐官）に抜擢されたとはいえ、薩摩にとっては旧敵国の有力家臣だけに、にわかには信じがたい出来事である。しかし、捕囚中に薩摩藩に上申した「管見」が評価されたのでは、と



新設された西郷隆盛旧邸跡碑
上京区下塔之段町(今出川校地東隣り)。

大神あずさ氏提供

(2019年3月4日撮影、以下同)

隆盛の借家

葬儀での覚馬履歴は見る。「小松帯刀、西郷隆盛等は曾て〔覚馬〕先生の識る所之〔管見〕を觀て大に其卓見に感ず」(一)は本井、以下同。

これに対して、新島と西郷・小松との接点は、ない。説教や演説で二度、西郷に言及するだけである。

しかし、本学(新島遺品庫)は奇しくも勝海舟自筆の「詠亡友南洲西郷氏(漢詩)」、「詠南洲先生和歌」を二点収蔵する。

昨年は、小松邸に続いて西郷旧宅地も

特定され、現場に記念碑が建てられた。

なんと本学今出川校地に隣接する。西郷が藩邸近くに下宿したことは既知の情報で、同志社でも『同志社五十年裏面史』以来、相国寺門前の旧三十番教室が有力視されていた。

三十番教室とは、府庁による校内での聖書授業禁止に対抗して、新島が校外に専用の聖書教室とするため購入した私宅である。いわば同志社神学館第一号で、今は校地に組み込まれアーモスト館管理棟が立つ。

西郷の長男、菊次郎が第二代京都市長の折、当時の同志社総長、原田助はこの教室の写真を菊次郎に進呈し、「京都時代の父上の旧宅」と陳述したという。

隆盛の子孫たち

菊次郎は同志社の理解者で、長男、隆吉(隆盛の孫)を同志社に送った。惜しいことに中退した。

さらに隆盛の弟(従道)にも、新島との交遊が生まれる。新島は彼が陸軍卿代理のとき、徴兵令改正(兵



三十番教室
元は隆盛下宿と伝わる同志社神学館第1号
(同志社社史資料センター所蔵)

役猶予)に伴う私学無視の政策に対して陳情をした。文部卿(大木喬任)との面談を設定してくれたこともあって、従道の印象は良かった。「閑雅ニシテ君子ノ風アリ。克ク我カ陳スル所ヲ聞キ入レタリ」と称賛する。

従道の長男、従理(隆盛の甥)はハリストス正教会で受洗した。十歳で亡くなり、葬儀は神田ニコライ聖堂で(新島ゆかりの)ニコライの司式により執行された。神父は従理の死を契機に求道を始めた母親の依頼で西郷家に通い、名士婦人対象の伝道集会を指導した。彼女は入信

しなかったが、長女（隆盛の孫）は長じてプロテスタント信徒となった。

大久保利通と岩倉使節団

次に大久保である。維新政府が欧米に派遣した「岩倉使節団」では副使（四人）の筆頭格であった。それだけにアメリカ留学中に一年余、団員を務めた新島と交流があつてもおかしくない。しかし、新島には他の副使（木戸孝允や伊藤博文）との接触はあつても、大久保との接点はほとんどない。木戸と新島の交遊が親密であつたことが、大久保の心証を害したもののか。木戸が新島に近い分、大久保は遠かつた。錯綜した関係は帰国後も続く。



利通長男から新島に贈られた大久保利通の写真
(同志社社史資料センター所蔵)

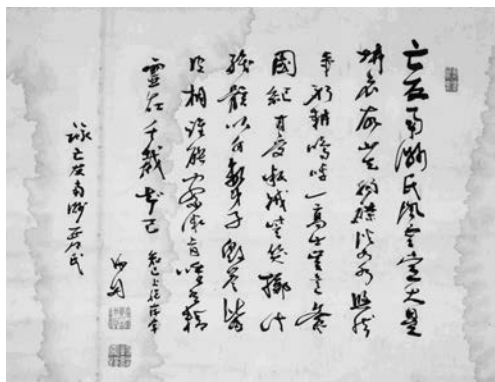
「大阪会議の副産物」

帰国後、新島が大久保に会える機会は大阪会議（一八七五年）であつた。政府と意見が合わず下野した木戸と板垣退助を政府中枢（参議）に復帰させるために、大久保が企画した。

会議の場所と時期、それに参加者は新島にとつてまさに天祐であつた。

帰国した新島は、安中で肉親と再会後に横浜から船で赴任地の大阪に向かつた。なんと伊藤が乗り合わせていた。新島によると、伊藤の方から「大変親しげに」声をかけてきて、神戸までの二泊三日間、「ずっと実に頻繁に一緒に（船内を）散歩しました」。伊藤の目的は大阪会議である。

新島が大阪に着くと、会議のために大久保と木戸が顔を揃えていた。かつての副使四人中、なんと三人までもが新島の赴任先に集結、とは奇遇である。
在阪中、木戸と伊藤は大阪にキリスト教学校を設立したいという新島を支援した。



勝海舟「詠亡友南洲西郷氏」(同志社社史資料センター所蔵)

そこで大久保の三男（利武）は「同志社の建設こそは、大阪会議の副産物」とまで絶賛する。ただし、祖父利通には目だった働きはない。

利通の旧宅と茶室（有待庵）

利通が幕末に京都で暮らした旧宅にも新しい動きがあつた。彼は、薩長同盟の締結直後に藩邸から出町付近へ移転した。裏庭の茶室には、西園寺公望が揮毫した扁額「有待庵」を掛ける。



大久保利通旧宅跡碑
寺町今出川下ル。筆者撮影(2019年11月3日)

旧宅跡地に立つ民家は、昨年、現所有者が取り壊したが、茶室は京都市が価値を認めて、移築、保存することにした。利武によると、茶室は元々御花畑にあつて「薩長連合の密談〔締結〕の際に用ひられた」が、その後、利通が譲り受け「この旧宅の奥に移し設け」たという。

大阪府知事時代に利武は、父親の旧宅を買戻して以後、種々の集会に利用した。時には同志社が関与して講演会を開き、筆記録を『有待庵をめぐる維新史談 大久保侯爵講演』と題し『同志社講演

集』第八輯(一九四四年)として発刊する。

利通の子どもたち

大久保家も西郷家と同様に、二代目には新島や同志社との繋がりが生じる。まず、長男の利和。新島は徴兵猶予に関する請願のため従道のほかにも利和・牧野伸顕兄弟をも歴訪した。それ以外にも利和は利通の写真を新島に贈呈したり、新島を自宅で接待したりする。利和家が火災に見舞われた時、おりしも在京中の新島はさっそく見舞いに馳せ参じている。

新島と大久保家の関係では、利通次男の牧野伸顕(牧野家へ養子)との交流も深い。伸顕は、同志社大学設立運動の支援者で、新島とは相互に自宅訪問や手紙のやり取りを行なった。新島の死後、同志社は栄光館前に「皇后陛下行啓記念」碑(一九三八年)を建てるが、揮毫は宮内大臣の伸顕に依頼した。

それ以上に同志社と近いのが三男(利武)である。社会事業に造詣が深い高官で、一九三一年に今の社会福祉学科が日本初として新設された時、第二代後援会

理事長に就任し献身的に働いた。同志社はその功に報いて、「社友」に特命した。

最後は七男の七熊である。隆盛の孫隆吉。同様に同志社に入り、新島にも歓待された。在学中、同志社教会で金森通倫から受洗したが、卒業には至らなかった。中退後も八重との交信は続いた。

木戸孝允と覚馬、新島

維新三傑のなかで、もともと新島や覚馬に近いのは木戸である。木戸は、新島が覚馬を知る前から、覚馬とは交流があった。覚馬は幕末、京都守護職幹部として反幕勢力を取り締まる立場にあつた。

一方の木戸は桂小五郎と変名して密かに反幕活動をする身であつた。伝説では、桂は覚馬らの追撃を逃れて鴨川の橋の下に潜伏したともいう。

薩長同盟の交渉では、木戸は薩摩藩邸に滞在して協議を重ね、小松邸を訪ねては例の茶室(後の有待庵)で小松や西郷らと密議した。

その木戸が新島と邂逅するのは、岩倉使節団で訪米した時である。新島は森有礼や田中不二麿らのたつての要請で団員

となり、大学院を休学までして同団に協力した。

ちなみに新島が最も密な関係を築いた団員は田中（文部理事官）と木戸であるが、実は田中は木戸の配下にあつた。

初対面の印象

木戸は初対面で新島に好印象を受け、日記で絶賛する。「新島の人物にすっかり惚れこみました」（司馬遼太郎）とか、木戸の洋行中「新島は実に木戸の意中の人だつた」（徳富蘇峰）とか評される所である。

一方、木戸の印象も同様で、新島は「木戸さんの振る舞いはとても紳士的で、好感がもてます。食事をしながらもたくさんのお話をしましたが、まるでアンドーヴァー〔神学校〕の〔学生〕クラブの仲間のひとりと話しをしているかのように振る舞えました」と英文書簡（本井訳。以下同）に記す。六日後にも、「木戸さんとは、十分に懇意になることができました。実に頻繁に会って、国民教育は徳〔キリスト教〕に基づかなければならない、という私見を伝えました」と認める。

木戸のキリスト教嫌い

以後、木戸は終始、新島の善き理解者となる。司馬は、「新島さんを見て、木戸はこれがクリスチャンなら怖くないと思つたらしい。だんだんつきあっているうちに、クリスチャンこそ素晴らしいとまでに思つたという。〔中略〕キリスト教に対する木戸孝允の迷信は、新島さんによつてとれてしまつた」と分析する。

在米中の木戸・新島の交流で注目すべきは、当時、木戸の甥、來原彦太郎がアーモストのマサチューセッツ農科大学に留学していたことである。來原は農科大



木戸孝允旧宅跡碑
「新島旧邸」近隣の中央区末丸町
（大神氏提供）

で新島の恩師、W・S・クラークの指導を受けるが、入学に關して新島が何らかの働きをしたかもしれない。

そうであれば木戸家の場合も、來原が後に孝允の跡取り養子となるので、二代目には間接的に同志社との縁が生まれることになる。

ドイツで再会

アメリカで用務を終えた木戸と新島は、別々に渡欧しドイツの温泉地、ヴィースバーデンで再会する。木戸は日記に、ホテルに「新島來訪」と記す。

一方の新島は使節団の残務整理を終え、同地の病院で三か月間、温泉治療中であつた。

温泉目当てだけでなく、「或は〔木戸〕公は〔新島〕先生の見舞いを兼傍、此の地に來りしにあらざるか」と推測するのは、利武である。木戸と新島は市内を散策して、旧交を温めた。木戸は新島に、裏に署名をした肖像写真を与えた翌日、

ライン川の河港から帰国の途について。木戸日記によると、「新島、来り送ル」。

木戸は帰国すると、今度は覚馬の陳情を受ける。覚馬はある事件で拘留された榎村正直京都府知事のため、不自由な身体を押して出京した。妹の八重（後の新島夫人）に背負われて政府要人を訪ね廻り、知事の釈放を陳情した。

中でも最有力の後援者、木戸の自宅への訪問は四回にも及んだ。逆に木戸が覚馬の滞在先を訪ねることもあった。

交流を深めた木戸は以後、京都で榎村知事と面談する際には常に覚馬を同席させた。

帰国後の大阪での交流

その後、木戸は帰国した新島をも厚遇する。初対面の日に「後來、頼むべきの人物也」と日記に記した文言を履行する第一歩が、先の大坂会議であった。

大阪では新島は同僚宣教師、M・L・ゴードンの借家に仮寓し、さっそく木戸を宿舎に訪ねた。木戸はその日、「晴、新島襄、来話。学校建築大に教育へ着手の順序、然して当人の志思等を尽せり」

と記す。木戸の肩入れは尋常でなく、木戸の方から新島の下宿（ゴードン家）を何度も訪ねている。ゴードン夫人の証言には、「新島襄氏は、私共の家において偉大なる木戸孝允、伊藤博文の両氏らと屢々相談会をいたしました」とある。

伊藤まで同行させている。これまた異例である。木戸の要請で、伊藤もまた新島に協力的となる。

木戸は大阪府庁に対する影響力が極めて大きかった。知事の渡辺昇は幕末、かつて江戸の剣道道場で塾頭の木戸とは兄弟弟子であった。知事の右腕（参事）、内海忠勝は長州人であった。

おりしも大阪府に二万円の寄付（洋風公園設立資金）を申し出た富豪の磯野小右衛門も、長州出身であった。

新島の志に共鳴した木戸は、磯野と知事を説得して寄付金を新島に回すよう進言した。新島の証言では、「木戸孝允公ニ面会シ、大阪ニ於テ英学校設立ヲ計リ〔シ〕カハ、公ハ予ヲ磯野小右衛門ニ紹介シ、氏ヲシテ〔学校〕建築費ヲ

出サシムル事ヲ企テ〔ラ〕レタリ」。

しかし、最終局面で渡辺が強硬に反対したため、新島の夢は頓挫した。知事は大のキリスト教嫌い、幕末の長崎キリシタン弾圧では現場で指揮した張本人であった。

伊藤博文も支援

一方、伊藤の援助も忘れられない。同志社開校後も伊藤は新島に協力的で、新島が第四師団長に募金要請に赴く際には紹介状を用意してくれた。

伊藤は維新の三傑よりは長命だったの



木戸孝允旧宅
鴨川河畔の「終の棲家」(大神氏提供)

で、同志社訪問の機会にも二度恵まれた。最初は宮内卿、次は首相として夫人と来校した。ほかにも東京と熱海で二度も新島と長時間の個別会談を持ち、さらには同志社に寄付さえしている。

ちなみに、伊藤がハルビンで暗殺されるまでの晩年の十年間、秘書を務めたのは古谷久綱であった。新島の教え子で、終生、新島を恩師と仰いだ。伊藤は多忙な政務の合間に、時には古谷を相手に新島談義を交わしたのではなかろうか。

京都開校の

PULL&PUSHの力

さて、大阪で躰たづないた新島も、翌年、京都では開校に漕ぎつけた。政府、府庁の双方で誰もが及ばぬ力を有していた木戸の支援が効いた。とりわけ、文部省で開校認可を下す田中不二麿が木戸の門下であつたことが幸いした。

三日間、粘り強く折衝した末、ようやく田中から認可を取るや、新島はすぐさま木戸家に足を運んだ。翌日も、である。京都府庁への影響力も無視できない。参事（後に知事）の榎村正直は長州出身

木戸日記では「半九郎」呼ばわりされ、まるで木戸の股肱である。

したがって長州閥が強く、後には長州人の国重正文と尾越蕃輔が知事の脇を固める。榎村が最も頼りにする「覚馬先生」は、木戸と密に繋がる。

府首脳陣の特別「賛助」は、木戸が「裏の志を貫徹するに務め賜へ」た結果、と新島は感謝する。なかでも覚馬の援助は決定的であつた。彼の「大なる引力」（蘇峰）が、同志社を京都にPULLしたのである。一方、同志社をPUSHした最大勢力は、田中、榎村、覚馬の背後に控える木戸である。新島が帰国後一年にしてキリスト教色皆無の土地、

それも「我国佛教大本山」の旧都に同志社を開校できた外的要因こそ「木戸公の有力懇切なる後援」と利武は断定する。

蘇峰も同意見である。覚馬を新島に会わせしたのは、「或は木戸其人であつたかも知れぬ」とまで推測し、「天は偶然にも、新島が自

から求めざるも、斯かくの如き人物を彼に与へたることは、彼の為にも亦同志社の為にも、寔まことに天来の幸運であつたと云はねばならぬ」と言明する。

「天来の幸運」の背後に木戸の姿を見る蘇峰は、「同志社も木戸公の援護によつて創立せられた」。「木戸公微かろりせば、同志社は出来なかつたとは申しませんが、新島先生をしてこれを成なりさしめたのは、木戸公の力」と評価する。

京都の木戸邸

それゆえ、同志社は開校後も木戸頼みである。「宗教上の首府」に侵入した宣



木戸孝允肖像写真
木戸が裏面に署名して新島に贈与
（同志社社史資料センター所蔵）

皇后陛下行啓紀念



「皇后陛下行啓紀念」碑除幕式(栄光館前、1938年12月8日、同志社女子大学史料センター所蔵)。
碑文の揮毫(同志社社史資料センター所蔵)は大久保利通次男で宮内大臣の牧野伸顕による。

教師に不動産を貸す市民など絶無である。J・

D・デイヴィスの借家探しに苦慮した新島は、空き家の木戸邸に目をつけた。京都を愛好する木戸は、引退後の「終の棲家」を半九郎に確保、管理させていた。

新島は長文の手紙で木戸に泣きついたが、こればかりは拒否された。「薩摩人からも頼まれるが断っている」と。

その後、木戸は予期せぬ形で同家に移り住む。天皇随行で入洛した木戸は、やがて病臥する身となった。

薬石效なくついに鴨川河畔の自宅で地上の生涯を終えた。天皇が二度までも見舞った木戸終焉の邸は、国指定の史跡となった。

西南戦争

ところで、木戸の京都転住直後、西郷が西南戦争を起こした。木戸は西郷の説得に戦地へ赴きたいと大久保などに訴えたが、叶わなかった。大久保その人も薩摩行きを止められた。

打つ手を失くした木戸は病床で、「西郷、いかげんにしろ」と呻吟したという。木戸は戦争の結末と西郷の自決を知らずに京都で亡くなった。

維新の三傑中、残る大久保が東京で刺殺されるのは、これよりほぼ一年後であった。三傑は、およそ一年内に次々と死去した。

そのうち木戸の死は同志社に大打撃であった。「若し木戸にして更に十年の歳月をかしらば」、日本や新島、同志社にとって「大に得る所があった」と蘇峰も慨嘆する。

木戸は心を寄せた京都、それもかつての畏友、龍馬と同じ墓所（霊山）に埋葬された。八年後、新島も霊山に近い若王子山に葬られた。相並ぶ三基の墓は、今日も東山から洛中を見晴るかす。

新型コロナウイルス感染症に伴う 在学生支援募金についてのお願い

平素から学校法人同志社へのご理解、ご協力を賜り、深く感謝申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、世界中で多くの人々の生活が一変しました。学校法人同志社が設置する学校には、4万2000名を超える学生、生徒、児童、園児が在籍していますが、政府の緊急事態宣言を受け、すべての学校が休校等になり、教室で学ぶことができない状況を余儀なくされました。

各学校では、緊急対策本部を立ち上げるなど、地域や卒業生のお力添えのもとで、社員が英知を出し合い、インターネット学習環境の整備など、力を合わせて、学生、生徒、児童、園児に寄り添いながら、教育水準、教育環境の維持・向上のために努力を続けています。緊急事態宣言は解除されましたが、長期化する新型コロナウイルスの感染拡大は、学費支弁者への経済的影響も大きく、就学をあきらめなければならない在学生が出てくることが予想されます。

そこで本法人としては、同志社教育を受けることを希望し入学した学生が失意のうちに終わることがないように、窮地に立たされている在学生に対して、支援金を給付することを決定いたしました。しかしこれらの取組を学費収入等で賄うことは難しいことから、この度「新型コロナウイルス感染症に伴う在学生支援募金」を開設して、卒業生、教職員のほか、広く社会の各方面からのご寄付を募ることといたしました。

つきましては、本募金事業の趣旨をご理解いただき、何とぞ温かいご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人 同志社
総長・理事長 八田 英二



寄付金募集要項

【募金目的】長期化する新型コロナウイルスの感染拡大により、学費の支弁に著しい支障の生じた在学生に対し、支援金を給付すること。

【募集期間】2020年6月1日から2026年3月31日まで

【お申込金額】個人 … 一口 1万円（一口未満のご寄付についても有難くお受けいたします）
法人／団体 … 一口 10万円

【学校指定について】

支援を必要とする在学生数（学生、生徒、児童、園児）は、学校によって異なるため、支援対象者は同志社が決定し、同志社在学生修学特別支援金として給付させていただきます。

ただし、ご寄付いただく際に特段のご希望があらわれる場合は、寄付金の一部もしくは全額について、特定の学校をご指定いただくことができます（例：全額を同志社香里中高を指定。半分を同志社女子中高、残りを同志社に一任。etc.）。なお、この場合に大学を指定された場合は「ALL DOSHISHA募金 特定寄付奨学金」として、女子大学を指定された場合は「サポーターズ募金 “ぶどうの樹” 経済的困窮学生に対する奨学金」として在学生に給付させていただきます。

【税制上の優遇】

学校法人同志社は、文部科学省より「税額控除対象法人」および「特定公益増進法人」の認可を受けており、同志社へのご寄付は個人によるご寄付の場合、所得税の「税額控除」または「所得控除」のいずれかを選択いただけます。

さらに、お住まいの地域によっては、住民税の「税額控除」の対象になります。

詳細は、<https://bokin.doshisha.ed.jp/tax/index.html>を参照ください。

【お申込方法】

インターネットからお申込みください。<https://bokin.doshisha.ed.jp/fund/shien.html>
インターネットからの申し込みが困難な場合やご不明な点がある場合は、下記にお問い合わせください。



お問い合わせ：法人部法人事務室

京都市上京区今出川通烏丸東入

TEL：075-251-3006 FAX：075-251-4980 E-mail：ji-hojin@mail.doshisha.ac.jp

<http://www.doshisha.ed.jp/>

ハリス理化学館同志社ギャラリー展示ご案内

ハリス理化学館同志社ギャラリーは、創立者新島襄の志と同志社の歴史等を、資料で紹介する展示施設です。ハリス理化学館は、J.N.ハリスの寄附をもとに1890（明治23）年に竣工し、永らく同志社における理化学教育の拠点となった建物です。現在、国の重要文化財に指定されています。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防について】

同志社ギャラリーでは新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を実施しております。来館前に同志社ギャラリーHPにある「新型コロナウイルス感染症予防のためお願い」をご確認いただき、感染症拡大予防にご協力をいただけますようお願いいたします。

なお、感染拡大の影響で会期が変更することがございます。来館前に同志社ギャラリーHPで開館状況をご確認ください。

【常 設 展】 ギャラリー内には6つの常設展示室が設けられています。1階には「新島襄の人と思想」、「同志社のあゆみ」、「世界の中の同志社」、「同志社の今」、2階には「J.N.ハリスと同志社」、「京都の中の同志社」と、部屋ごとにテーマがあり、創立以来の歴史と共に、京都や世界と共に歩んできた同志社の足跡をたどることができます。（2か月に1回程度の展示替え有）

【企 画 展】 第22回企画展

タイトル：「『支え合う志』をつないで一障がい学生支援制度発足20周年ー」

期 間：2021年3月19日（金）～5月23日（日）（月曜・祝日は休館）

場 所：ハリス理化学館同志社ギャラリー2階企画展示室（今出川キャンパス）

主 催：同志社大学学生支援センター障がい学生支援室・同志社大学同志社史資料センター

協 力：全国高等教育障害学生支援協議会（AHEAD Japan）、
大学コンソーシアム京都、日本学生支援機構（JASSO）、日本財団、
日本聴覚障害学生高等教育支援ネットワーク（PEPNet-Japan）

【入 場 料】 無料

【開館時間】 10:00～17:00（最終入館16:30まで）

【閉 館 日】 日曜日（企画展開催中は開館）、月曜日、祝日、ゴールデンウィーク、夏期休暇中の一定期間、年末年始。

※開館日等を変更する場合があります。お越しになる前にホームページ等でご確認ください。

【場 所】 同志社大学 今出川キャンパス

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。



入場無料

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務局（日・月・祝日は閉室）

ホームページ：https://harris.doshisha.ac.jp/

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736

E-mail：ji-harjm@mail.doshisha.ac.jp

新島旧邸公開のお知らせ

新島旧邸の敷地には、幕末まで京都大工頭中井家の屋敷があり、明治初年には中井屋敷を堂上華族の高松保実が所有していました。1875（明治8）年11月29日、新島襄は、この高松邸の半分を賃借して仮校舎とし、生徒8名で同志社英学校を開校しました。翌年、英学校は薩摩藩邸跡地の専用校舎に移りますが、その後、新島は高松邸を購入し、自宅を1878（明治11）年に建築しました。これが、現在の新島旧邸です。同志社発祥の地に建つ新島旧邸を、同志社の建学の理念を体感する場として公開します。

【新型コロナウイルス感染症拡大予防について】

新島旧邸では新型コロナウイルス感染症の拡大予防対策を実施しております。来館前に同志社社史資料センター新島旧邸HPにある「新型コロナウイルス感染症予防のためのお願い」をご確認いただき、感染症拡大予防にご協力をいただけますようお願いいたします。

なお、感染拡大の影響で運営を変更することがございます。来館前に同志社社史資料センターHPで開館状況をご確認ください。

【公開期間】 ①通常公開 10月6日～11月28日、3月2日～3月30日

毎週 火・木・土曜日（祝日は除く）

②特別公開 10月1日～5日（秋の特別公開）

11月29日（創立記念日）

2021年3月20日～22日（卒業式）

※公開日の詳細はHPをご覧ください。 <https://archives.doshisha.ac.jp/>

【公開時間】 10:00～16:00（入館受付は15:30まで）

【見学対象】 ①通常公開

旧邸周囲から建物内部を見学（建物内部には入場できません）。

②特別公開

旧邸周囲および建物内部（母屋1階と附属屋）に入場できます。

※旧邸建物内に一度に入れる人数は20名程度とします。

【入場料】 無料

【場 所】 京都市上京区寺町通丸太町上ル松蔭町

※駐車場、駐輪場はありません。公共交通機関を利用してお越しください。

【団体見学申込】 10名以上の団体は、予約が必要です。団体予約は、見学日の1週間前までに電話・FAX・E-mailにて下記にお申し込みください（電話受付は10:00～16:30）。



入場無料

お問い合わせ先

ハリス理化学館同志社ギャラリー事務室（日・月・祝日は閉室）

TEL：075-251-2716 FAX：075-251-2736

E-mail：n-kyutei@mail.doshisha.ac.jp

同志社女子教育と体育・スポーツ

3つの正三角形からなる同志社徽章は、知・徳・体の三位一体の教育理念の象徴であると言われています。同志社の女子教育の中でも、心身に健康をもたらすための教育は常に重視されてきました。それは、正課の授業に加えて、スポーツフェスティバルや課外活動など多面的に展開されています。今回の企画展では、本学の体育教育およびスポーツの歩みを振り返り、それが果たしてきた役割を見直していきます。

期 間：2019年11月22日(金)～2021年7月30日(金)

期間延長！

時 間：10:00～16:00

閉 室 日：土・日・祝日 および12月25日～2021年1月5日、4月30日

(ただし、11月3日、21日、22日、23日、2021年7月19日は開室して
おります)

場 所：同志社女子大学史料センター

(今出川キャンパスジェームズ館 1 階展示室)

主 催：同志社女子大学



同志社女学校でのなぎなたの稽古

同志社史資料センター提供

お問い合わせ：同志社女子大学史料センター

〒602-0893 京都市上京区今出川通寺町西入

TEL：075-251-4200 FAX：075-251-4201

E-mail：shiryo-i@dwc.doshisha.ac.jp

本号の特集は、新型コロナウイルス禍での同志社教育の基本的考え方、及び、大学におけるオンライン教育の可能性と今後の課題や同志社香里中高での具体的なオンライン授業の事例を紹介しています。

4月以降、少なくとも春学期は、数百名規模の講義が一般的な大学や女子大学では、「3密の防止」という観点から同時双方向型やオンライン型のオンライン授業に切り代わりました。秋学期以降は、感染症対策をしっかりととりながら、対面授業とオンライン授業を併用

したハイブリッド型授業となる予定です。

幼稚園、小学校、中学校、高等学校では通常授業に戻りましたが、カリキュラム消化の遅れを危惧する声もあり、夏休みの短縮化、休日授業、諸行事の中止、変更が余儀なくされ、教職員にとっては神経をすり減らす日々が続いています。しかしながら、逆境のもと、各学校の教職員が一丸となって、児童生徒、学生、院生の「学びを止めない」ために、様々な創意工夫を凝らしたこと、また、凝らそうとしてい

ることが、本特集で明確になったのではないのでしょうか。学生第一の教育思想が根本にあるからこそできることだと思います。各学校、

学生のネット環境の問題で、必ずしも同時双方向型オンライン授業をいつも提供できていたわけではないですが、その場合は動画配信等によるオンデマンド型授業が行われました。また、音楽では実技に代わるリモート演奏が取り入れられた学校もありました。

今号も特集記事のみならず、多くの方から玉稿をいただきました。紙面をお借りしてお礼を申し上げます。新型コロナウイルスの影響で通常の学期よりも何倍も多忙を極めておられる期間中の原稿の執筆、誠にありがとうございます。

(岡本)

●同志社広報委員会小委員会委員

ABC順・〇印委員長

大学神学部助教	木谷佳楠
大学文学部准教授	山田徹
大学社会学部助教	奥井遼
大学法学部教授	勝山教子
大学経済学部教授	久保徳次郎
大学商学部准教授	内野雅子
〇大学政策学部教授	岡本由美子
大学文化情報学部助教	田中雄稔
大学理工学部教授	稲葉浩一郎
大学生命医科学部准教授	貞包根直之
大学スポーツ健康科学部准教授	海老根昌典
大学心理学部教授	及川REGINE DIETH
大学グローバル・コミュニケーション学部助教	SUSANNA PAVLOSKA
大学グローバル地域文化学部准教授	中野慶理
女子大学文学部教授	大津正和
女子大学現代社会学部教授	松元加奈
女子大学薬学部准教授	葉山香人
女子大学看護学部専任講師	宮本直人
女子大学表象文化学部准教授	奥田紫乃
女子大学生生活科学部教授	鎌田伸一
中学校・高等学校事務長	内山栄行
香里中学校・高等学校事務長	磯田信行
女子中学校・高等学校事務長	貴志浩子
国際中学校・高等学校事務長	齋藤道子
小学校事務長	細川琴恵
国際学院事務長	竹中望
幼稚園教諭	柳井邦裕
法人事務部長	朝田直人
大学広報部長	矢田覚
法人事務部校友同窓課長	矢田西
大学広報部広報課長	今西渡邊
女子大学広報部広報室広報課長	

●編集協力 アルカダッシュ

●同志社時報の申し込み

・送料（ゆうメール着払い：1冊236円）のみのご負担で
ご購読いただけます。

・お申し込みは、綴じ込みハガキをご利用ください。

・宛先 〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入
同志社大学広報課

同志社時報 第150号

編集人 岡本由美子

発行人 八田英二

発行 学校法人同志社

同志社大学広報課同志社時報係

電話 (075) 251-3120

印刷所 株式会社 I T P

2020年10月1日発行



切り取り線

お手数ですが
63円切手を
お貼りくだ
さい。

602-8580

京都市上京区今出川通烏丸東入

同志社大学広報課 同志社時報係 行

(ふりがな) お名前	
ご住所	〒 ー 電話 () ー
いずれかに○をつけて下さい。 校友 ・ 同窓 ・ 父母 ・ 一般 ・ 教職員 (同志社 学校 年卒業)	

切り取り線

本誌送付ご希望の方は、下記のいずれかに○をおつけください。

- 新規希望 (購読申請書をお送りいたします)
- バックナンバーをご希望の方は、号、発行年月をお書きください。 号(年 月発行)

※新規読者をご紹介いただける場合は、裏面を使ってご紹介者の連絡先をお知らせください。見本誌をお送りします。

同志社教育の目的は、その神学、政治、文学、科学等に従事するにかわわらず、みな精神、活力あり、真誠の自由を愛し、もって邦家に尽すべき人物を養成するを務べきこと。

新島襄の遺言より

『同志社時報』に関するご意見・ご感想をお寄せください。

切り取り線

切り取り線

切り取り線



Doshisha college song

Words by W. M. Vories Music by Carl Wilhelm

One purpose, Doshisha, thy name

同志社よ、その名は一つの目的を意味する。

Doth signify; one lofty aim:

その学徒の精神的、肉体的に、

To train thy sons in heart and hand

神のため、祖国のため、生きんという

To live for God and Native Land.

一つの崇高な目的を。

Dear Alma Mater, sons of thine

親愛なる母校よ、同志社の学徒は、

Shall be as branches to the vine;

ぶどうの枝のごとくつながりゆくことであろう。

Tho' through the world

たとえ、世界くまなく、広くはるかに、

we wander far and wide,

われらさまようとも、汝の教訓は、

Still in our hearts thy precepts shall abide!

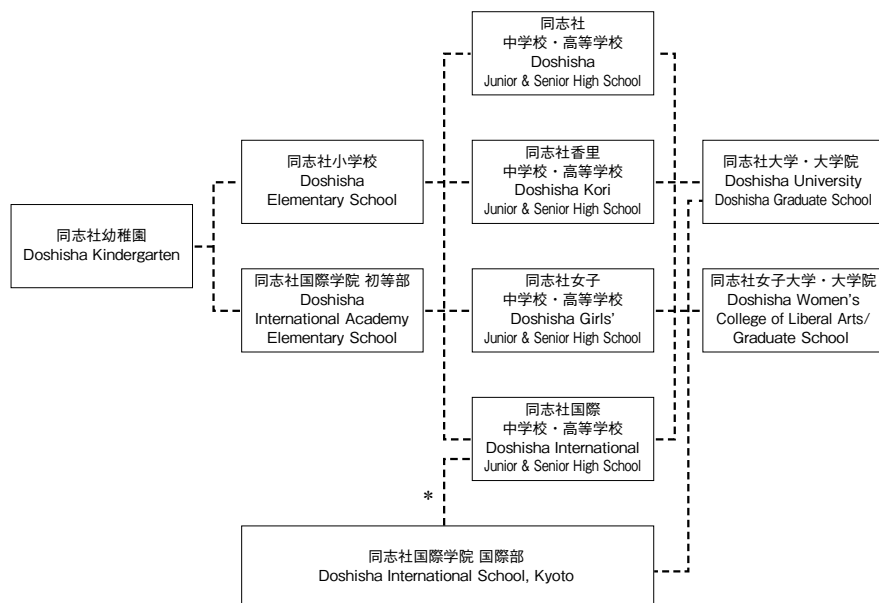
われわれの心に永遠に生き続けるであろう。

(訳：児玉 実英)



同志社の一貫教育体制

The Integrated Educational System of the Doshisha



*一定の条件があります (帰国生の要件)



D O S H I S H A

同志社時報

第150号 2020年10月発行